



県測協  
**HIROSHIMA**

2022年度

巻頭言（挨拶）			
	一般社団法人 広島県測量設計業協会 会長	森 脇 克 彦	…………… 1
	一般社団法人 広島県測量設計業協会 顧問	平 口 洋	…………… 2
	一般社団法人 広島県測量設計業協会 顧問	狭戸尾 浩	…………… 3
特別寄稿			
	新年のごあいさつ		…………… 4
	国土交通省中国地方整備局 企画部長	西 澤 賢太郎	
	広報誌「年輪」に寄せて		…………… 6
	国土交通省国土地理院 中国地方測量部長	田 中 宏 明	
	新年のごあいさつ		…………… 8
	広島県土木建築局長	上 田 隆 博	
	新年のご挨拶		…………… 10
	安芸太田町長	橋 本 博 明	
経営者懇談会 講演録			…………… 12
	「人を癒す場のチカラとは」 ～世界の辺境・日本の里地里山からの学び～		
	トラベルセラピスト・鍼灸師	清 水 正 弘	
合格奮闘記・体験記			…………… 34
	技術士合格体験記 (株)荒谷建設コンサルタント	寺 岡 康一郎	
	技術士合格体験記 中電技術コンサルタント(株)	兵 頭 篤	
	RCCM合格体験記 (株)荒谷建設コンサルタント	白 山 正 太	
	コンクリート診断士合格体験記 ダイホーコンサルタント(株)	和 田 満 博	

社長・スタッフ（社員）投稿記事			
	「自分と会社・趣味について」	.....	38
	(株)タマルコンサルタント 代表取締役 田丸哲志		
	「生涯学習のススメ」	.....	40
	(株)ミネ技術 松並恭子		
	「サラメン」	.....	42
	中国開発調査(株) 常務取締役 宮村孝司		
青年部会コラム		.....	43
	「令和4年度青年部会の活動と今後の課題について」		
	(株)荒谷建設コンサルタント 代表取締役 荒谷悦嗣		
協会活動状況（令和4年1月～令和4年12月）		.....	46
	総会・理事会		
	委員会		
会員紹介		.....	60
	(株)土木技術コンサルタント		
発注機関との意見交換会 概要		.....	62
	広島県（本庁・事務所長）		
	国（5事務所）		
会員名簿		.....	64
	会員名簿		
	賛助会員名簿		
編集後記		.....	66



年頭あいさつ

（一社）広島県測量設計業協会 会長 森 脇 克 彦

新年あけましておめでとうございます。今年は卯年、卯は跳躍する姿から大きな飛躍・向上を意味し、今年一年皆様のますますのご繁栄をお祈りいたします。

長期化する新型コロナウイルス流行3年目の昨年は8月を中心に流行した第7波、その後落ち着きつつ減少傾向が見えたものの12月に入り第8波が本格化し過去2年を大幅に上回る感染拡大の年となりました。公共事業の依存度の高い我々測量設計業においても感染拡大の影響は起こりつつも徹底した感染対策を実施してウィズコロナと向き合いながら各協会員も企業運営に取り組んでいます。

昨年も9月の台風14号により広島県西部を中心に豪雨災害が発生し復旧に向け多くの協会員がその対応に取り組みました。毎年のように頻繁に発生する自然災害ですが、広島県、市町及び協会と大規模災害時の支援協力に関する協定を締結しており、今後もその対応が迅速・円滑に実施されるよう関係機関と緊密な連携を図り地域の守り手として取り組んで参りたいと思います。

中国地方整備局ではインフラDX推進計画を策定し令和5年度から小規模を除くすべての詳細設計・工事でBIM/CIM原則適用と位置付けられるなど効率的で質の高い建設生産・管理システムを構築することを推進しています。また広島県においては広島デジフラ構想を策定しBIM/CIMの活用等建設分野の生産性向上を図ることとされ、主要な土木構造物のCIM業務活用割合を令和5年度30%、令和7年度100%を目指すことされています。BIM/CIMへの協会員の取り組み状況は様々ですが、その方針は示されており今後の設備投資あるいは人材育成等協会員の皆様には確実に取り組んでいただくことをお願いいたします。協会としても可能な限り講習会等開催し技術力向上や情報収集に努めてまいります。

当協会青年部会においては担い手確保に向けての多くの活動を行っています。この度活動の一つとして、学生や就活者向けに測量設計業務と魅力、業界の担う役割や社会的貢献等を視覚や聴覚で分かり易く伝えるための広報動画を制作しました。測量設計業界に対するイメージが刷新し仕事に責任感を持って取り組む姿勢や風通しの良い職場を明るくソフトなイメージが表現でき、飽きのこないコンパクトに取りまとめられ業界に関心を持っていただける動画が出来上がりました。今後の人材確保に向けてその効果を期待するところであります。機会がありましたら当協会ホームページに掲載していますのでご覧ください。

本年も測量設計業界が直面する課題の解決に向け精いっぱい取り組んでまいります。皆様のご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

会員皆様の御健勝と企業の発展を心より祈念申し上げ新年の挨拶とさせていただきます。



## 新年のごあいさつ

（一社）広島県測量設計業協会

顧問 衆議院議員 平 口 洋

一般社団法人広島県測量設計業協会の皆様には、お元気で令和5年の初春お迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。昨年は、大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。今年は卯（うさぎ）の年です。卯のように元気いっぱいの年であることをお祈り致します。

昨年の二月二十四日にロシアのウクライナ侵略が始まりました。ロシアは南東部の四州を一方的に併合するなどしています。これに対して、ウクライナも対抗しておりますが、ロシアでは核兵器の使用をちらつかせながら侵略を繰り返しているものですから、NATO 諸国も米国もまだ武器供与に止まっています。

新型コロナウイルスが我が国に入って来て、丸三年が経過しようとしています。最近では感染力は強いものの重症化リスクは小さくなっています。そこで、経済発展とのバランスをとるため、“ウィズコロナ”（コロナとともに生きていく社会）が大切になっています。

皆様は、土地の計測と土木建築物の設計を通して、国土の強靱化と日本経済の発展に大きく寄与しておられ、深く敬意を表します。測量や設計の分野においても、デジタル化を図る余地がたくさんあります。また、i-Construction を目指して、デジタル化を一層進めることが大切です。測量、調査データの3D化及び施工段階で活用できる設計データの3D化技術の開発などです。

測量設計業の皆様は、その持てる力を十分に発揮し、地域の発展の原動力となられることが期待されています。お陰様で、道路工事、河川工事、砂防工事や都市再開発など順調に進んでおります。今後は、発生が懸念される南海トラフ巨大地震や国土強靱化基本計画などを視野に入れ、十分な役割を果たしていただきたいと思います。社会のあらゆる要望に対応できる体制づくりを心掛け、国民生活の安心・安全に寄与することが測量設計業協会の役割です。今後も、国土強靱化基本法のもとで、地域の特性に応じた具体策を実行して行って下さい。

新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束することを切に祈ります。一般社団法人広島県測量設計業協会の益々のご発展と会員企業のご繁栄を祈念し、年頭の挨拶と致します。



### 新年のごあいさつ

（一社）広島県測量設計業協会

顧問 広島県議会議員 狭戸尾 浩

2023年の新春を迎え、謹んでお喜びを申し上げます。

広島県測量設計業協会の会員並びに賛助会員の皆さまにおかれましては、清々しい新年を迎えられたことと思います。

新型コロナウイルス感染症の発症以来3年がたち、いまだにマスクが手離せない状況が続いており、更にロシアのウクライナ侵攻によりエネルギー・食糧など日本も物価高騰に多大な影響を受けて、厳しい生活を強いられています。

この様な状況の中で、昨年はサンフレッチェ広島のルヴァン・カップ優勝に加えて、元サンフレッチェの森保監督が率いるサッカー日本代表は強豪国を次々と破り県民に勇気と希望を与えてくれました。

広島県政に目を向けますと、令和5年の運営方針は「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」に基づき、新たな広島県づくり「新総合計画」に取り組んで参ります。

また、激甚化・頻発化する自然災害から人命を守るため、ハード対策等による事前防災の推進とデジタル技術を活用したソフト対策更に、カーボンニュートラルの推進、デジタル・IoT人材育成、イノベーションによる新たな創造の取り組みも合わせて広島県測量設計業協会の会員の皆さまにご尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

5月にはG7広島サミットが開催されます。世界に向けて広島の魅力を発信し、インバウンド誘客の増加をはじめ様々な波及効果を産み出すことと核の悲惨な実相が訴えられることを念願しております。

今年の干支『卯』のように広島県測量設計業協会の益々の飛躍と皆様方のご健勝・ご多幸と更なるご活躍を心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のごあいさつ

国土交通省 中国地方整備局 企画部長 西 澤 賢太郎

新たな年を迎え、ここに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人広島県測量設計業協会の皆様方におかれましては、平素より国土交通行政に対しまして、格段のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

特に、近年の頻発する災害における緊急的な対応や、まだ収まる気配のないコロナ禍における感染防止対策に注力しながらの業務執行にご尽力頂いていること、改めて感謝申し上げます。

災害対応については、気候変動による災害リスクの増大も踏まえた予防対策としての防災・減災、国土強靱化の取組を引き続き着実に計画的に進めていく必要があります。皆様ともしっかり連携して安全・安心な地域づくりを推進してまいります。

一方、災害時には地域の守り手となる建設業界においては、高齢化の進行、若手入職者の減少など担い手不足が深刻化しています。担い手の確保・育成にむけては、業界全体で「生産性の向上、働き方の改革」をさらに進めて魅力的な職場環境を整備していく必要があります。

このような状況を踏まえ、中国地方整備局では ICT 施工や BIM/CIM の活用などインフラ分野の DX に取り組んでおり、昨年末には令和 5 年度のインフラ DX 推進計画 2023 を公表しました。既計画の 50 の取組について進捗状況等をフォローするとともに、新たな取組を加え、合計 60 の取組を設定しています。ホームページに公開していますのでご覧頂ければと思います。

皆様にも関係の深い BIM/CIM の活用については、令和 5 年度より全ての業務・工事で原則適用となります。先日示された実施方針案では、活用目的に応じて 3 次元モデルを作成・活用するとともに、後工程にデータをきちんと引き継ぐための取組を進め

ることとなりました。

測量・調査・設計・施工・維持管理の各段階で3次元モデル等を活用し、一連の建設生産・管理システムにおける品質の確保，受発注者双方の業務効率化・高度化を図るという，BIM/CIMの理想を掲げつつ，地に足をつけて現実的に進めて行く必要があります。

BIM/CIMについては，これまで取り組んできた中で，活用場面や効果などがわかりにくい等の課題も明らかになってきたことから，中国地方整備局では令和元年から令和3年にかけて実施した業務・工事において，活用事例・効果・課題をまとめた「BIM/CIM活用事例集」「BIM/CIM活用の手引き（案）」「プロセスマップ」の3点セットをホームページに公開していますので，あわせてご活用頂ければ幸いです。

ところで，ロシアのウクライナ侵攻，世界的な燃料や資材の高騰など，ネガティブな空気が世の中を覆っていた印象が強い昨年でしたが，その中で，サッカーのワールドカップカタール大会は，世界に明るい話題を提供してくれたのではないのでしょうか。

日本代表チームもこれまでにない景色をみせてくれました。森保監督も今まで積み重ねてきたものを本番で見事に発揮して国民に大きな喜びを与えてくれましたし，采配や戦術だけでなく監督の振る舞いや言葉なども注目されたことは，広島の間人にとっても誇らしいものでした。

不肖私もいまだにシニアサッカーを続けている身として，ワールドカップは大好きなのですが，今大会はこれまでと比較しても，日本以外のチームの予想外の躍進も含めて実におもしろいワールドカップとなりました。この刺激を受けた前向きな良いムードで，今年もサッカーにも精進していきたいと思っております。

最後になりますが，中国地方整備局のミッションである，安全・安心で活力ある中国地方の実現にむけて，また，魅力的で希望のもてる建設業界の実現にむけて，ひきつづき努めて参りますので，皆様のご支援ご協力を改めてよろしくお願い申し上げます。





## 広報誌「年輪」に寄せて

国土交通省 国土地理院 中国地方測量部長 田中 宏 明

一般社団法人広島県測量設計業協会の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、これまで長きにわたり、社会変化に対応し、県内における測量設計業の適正な運営と発展のため尽力されてこられました。また、人材育成をはじめ、地域社会に根差した活動を増やされておられます。これらのごことに対して、深く敬意を表します。

国土地理院では、i-Construction や自動運転など、インフラ・物流、まちづくり等の DX に不可欠な位置情報基盤である国家座標を粛々と整備しています。

高度な位置情報（緯度・経度・高さ）は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する Society5.0 を実現する上で不可欠なものです。その位置の基準である国家座標を正確に定め、一つの共通基準において ICT 土工における設計や施工、自動運転、スマート農業、その他の各種データに含まれる位置情報について、国土地理院では、共通ルールである国家座標に準拠することの普及・啓発を行っています。

最近新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、政府をあげて様々な対策が進められました。広島県においてもいろいろな措置がとられ、その影響は測量設計業界においても、工期の変更や延期などの影響があったものと思われます。今は新型コロナウイルスに関する多くの規制が緩和されつつあり、共存していく体制作りも必要となってきています。一方で、多くの規制を受ける中でリモートワークが普及し始め、多様な働き方を実現し、結果としては働き方改革を推進しました。

国土地理院では、ウィズコロナにおける持続的な経済成長の実現に向けた取組として、3次元データの充実、国家座標の維持管理により位置情報基盤を強化することで、DX を推進し、ウィズコロナにおけるデジタル化社会の実現に貢献していきます。

政府は、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立させる人間中心の新しい社会「Society5.0」の実現を目指しています。その中で、現実空間をデジタルデータとして表す地理空間情報は、現実空間を仮想空間に再現するために必要不可欠な情報です。

Society5.0あるいはDXにおける測量・地理空間情報分野で働く私達の役割は、現実空間を計測して、仮想空間に現実空間との「瓜二つ」状態「デジタルツイン」を構築・管理することと言えます。

デジタルツインは、実社会において巨大地震などによる地震動・津波・地殻変動などによって仮想空間と現実空間の位置や情報にズレが生じることにより、「瓜二つ」状態を保てなくなることがあります。そのズレを迅速に国土地理院は解消していきます。

また、昨年春には地理空間情報活用推進基本計画の第4期が策定されました。これまで以上に様々な分野での地理空間情報の利活用が広がってきており、それを支える皆様の役割もますます重要となってきました。

最近全国各地で大規模な自然災害が続発しています。平成30年7月豪雨では県内全域で甚大な被害が発生したことは記憶に新しいところです。

国土地理院の初動対応では、現地での迅速な救助活動や排水計画に役立てるため、SNSや「おりづる」をはじめとする地方整備局のへりを主軸に、被災の様々な情報から浸水範囲の端の地点を確認し、浸水面を推定して浸水推定図を作成・提供する体制を整えています。また、早急な体制の構築が難しい、夜間・休日を問わず発生する大規模地震の初動では、地震時地盤推計システム(SGDAS:スグダス)や電子基準点リアルタイム解析システム(REGARD:リガード)の運用を始めています。

また、津波や土砂災害など繰り返し起こる可能性が高い災害で、災害の記録が刻まれた自然災害伝承碑や、過去の土地の成り立ちを示す地形分類データなどの整備も進めています。これらの情報は、地域における防災意識を高めるとともに、減災に向けた取組や地理教育・防災教育に活用されることが期待されます。今後も、強靱な国土づくりのための防災・減災に資する取組を一層進めてまいります。

そして災害は自分の知っている土地のみで起こるものではなく、出張中や帰省中に起こることも限りません。その対応としてスマホでも災害の発生情報が確認でき、避難所の位置確認ができる地理院地図はこのような時に大きな力を発揮するものと期待しております。

これらを含めた活動を通して、社会における一般社団法人広島県測量設計業協会の役割は年々大きくなってまいります。皆様方には引き続きご支援・ご協力をお願いするとともに、協会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍・ご健勝を心より祈念いたします。



## 新年のごあいさつ

広島県土木建築局長 上田 隆博

### 1 はじめに

一般社団法人広島県測量設計業協会の皆様方におかれましては、新型コロナウイルス感染症の長期化や、世界的な物価高騰などの影響により、大変厳しい経済情勢が続く中、本県の土木建築行政の推進について、格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本県では、総合計画である「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン（以下、「ひろしまビジョン」という）」を踏まえ、社会資本分野の総合計画にあたる「社会資本未来プラン」、及び事業別整備計画等の関連計画に基づき、「安全・安心を支える総合的な県土の強靱化」、「交流・連携を支えるネットワークの充実・強化」、「魅力的で持続可能な社会を支える基盤形成」及び共通施策である「社会資本の適正な維持管理の推進」の4つの施策を掲げ、各種事業を計画的に推進しているところです。

これら社会資本整備や適切な維持管理を着実に推進するためには、建設コンサルタントの皆様にご協力をいただくとともに、建設産業の担い手を安定的かつ継続的に確保・育成していく必要があると考えています。

このため、「広島県建設産業ビジョン2021」に基づき、ウィークリースタンスの実施などの労働環境の改善やデジタル技術の活用等による生産性の向上などを進めるとともに、次世代へ向けた建設業界の魅力の発信に取り組んでいるところであり、引き続き若手からも選ばれる建設産業を目指して、取組を実施してまいります。

### 2 広島デジフラ構想について

本県では令和3年3月に策定した「広島デジフラ構想」に基づき、デジタル技術を最大限活用した、より効果的かつ効率的なインフラマネジメントを推進するための具体的な取組を官民連携して進めています。昨年6月には、公共土木施設に関するあらゆる情報を一元化・オープンデータ化し、官民のデータ連携を可能とするインフラマネジメント基盤

「Dobox」の運用を開始したところであり、県・市町での活用のみならず、民間企業や研究者など多くの方に利用されており、引き続き、さらなるデータの利活用による県民サービスの向上に取り組んでまいります。

また、建設分野の生産性向上に向けた i-Construction の取組として、橋梁や砂防堰堤などの主要な土木構造物の C I Mモデル作成を行う「C I M活用業務」を推進しているところであり、令和5年度は「C I M活用業務」の割合が30%となるよう、皆様のご意見も伺いながら取組を拡大してまいります。

### 3 趣味について

昨年の秋に国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ2022」が開催されました。瀬戸内の美しい風景を見ながら本線を車両通行止めにしてダイナミックに走破するコースが人気となり、海外33の国からの180名含めて総勢6371名もの多くの方が参加され、自転車活用促進や本四高速の利用促進を担当している私も普段乗っているロードバイクを持参して参加させていただき、気持ちの良い汗を掻いてきました。その他の趣味としては、ゴルフと釣りで、週末には、暇さえあれば海に行ったり山に行ったりと忙しくしていますが、これが思うようにいかず、二刀流（クラブと竿）とは程遠い状況にあります。こんなことで、週末はほとんど自分の趣味で埋まっており家族には大変不評ですが、家庭サービスも忘れずに、上手くバランスをとりながら充実した休日や週末を送っています。

### 4 おわりに

ひろしまビジョンが目指す県土の将来像の実現に向けて、「社会資本未来プラン」及び関連計画に基づく取組を計画的に進めるとともに、広島デジフラ構想に基づき建設分野のDXを積極的に進め、i-Constructionの推進による幅広い人材の確保や労働環境の改善など、建設業界の魅力向上にも取り組んでまいりますので、引き続き、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



## 新年のご挨拶

安芸太田町長 橋本博明

新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人広島県測量設計業協会会員の皆様方におかれましては、日ごろから本町をはじめ、県内の様々な土木建築事業について、ご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年暮れに、県測協の森協会長がわざわざ本町まで来られました。いわく来年からは協会の広報誌に、基礎自治体の首長に特別寄稿をお願いしたいと考えており、ついでには一番手を私に努めよとのことでした。初めてということですから参考にする前例がなく、また適任の諸先輩方も多い中で何故若輩の私をご指名か、と当初はお断りするつもりでしたが、日頃よりお世話になっている会長からのお頼みであり、かつ本町の宣伝でも良いという事でしたので、<sup>ま</sup>枉げてお引き受けいたしました。

というのも平成の大合併により本町が誕生して17年が経ちますが、未だに「安芸太田町」って何？何処？という方が結構おられます。理由は安〇高田市という良く似た名前の、しかも本町よりもマスコミに取り上げられる機会の多い自治体があったり、あるいは「安芸太田」では「加計」や「戸河内」、「筒賀」といった、これまで知られている地名がかけらも感じられなかったりということで、本町の活性化以前に、先ず「安芸太田町」の知名度を高める事が私の使命と痛感しているからであります。

さて、安芸太田町は広島市の北西部、山口県と島根県の県境に位置しており、太田川の流域にあった「加計町」、「戸河内町」、「筒賀村」の2町1村が合併した町です。ひと昔前であれば、下道で広島市内から2時間かかる距離にあったことから、「田舎」、更には「秘境」というイメージが強かったかもしれませんが、現在は（高速を使えば）一時間弱で到着するというので、実は十分に通勤圏内の位置にあります。

本町の特徴といえば、豊かな「自然」にあり、町内には全国に36しかない特別名勝の一つである「三段峡」、県内でも数少ない草原の山「深入山」、県内最高峰の「恐羅漢山」、アーチダムとしては国内2番目に大きな「温井ダム」、日本国内で最も美しい36の風景の一つとして米CNNで紹介された「井仁の棚田」、県内の銀杏では恐らく最高齢の「筒賀の大イチョウ」、

夏目漱石とも縁のある「吉水園」と県内でも有数の観光スポットが存在し、四季を通じて多くの観光客で賑わいます。

他方、本町の余り嬉しくない特徴は「過疎化」であり、県内23の市町の中では最も人口が少なく、最も高齢化率が高い地域です（全国でも26位！）。財政規模も最小であり、財政力指数（自前で回収できる税収等の割合）は0.2と、ほぼ国からの交付金で支えられている自治体です。

いわば過疎は過疎でもその最先端を走っている本町ではありますが、ここ最近のコロナ禍による「密」を避ける風潮からは特に注目を頂いているようで、行楽シーズンの来町者数や本町への移住相談の件数は増加傾向にあります。この風を追い風に過疎を跳ね返したいと、現在本町は観光振興を大きな柱として取り組んでいます。特に本町のこれまでの観光は見て楽しんで帰るだけということで、お金を落としてもらえない仕組みがありませんでした。これからは、加えて体験を楽しんでもらう、例えばキャンプや森林セラピーといったアウトドア体験やSUPやカヤックといったアクティビティを提供することでお金を落としてもらえるように、様々なコンテンツ開発に力を入れています。

また、ここでしか出来ない仕事を増やすことは、移住・定住の促進という意味でもプラスであり、その点、農業や林業といった一次産業の振興にも、並行して力を入れています。

ともあれ、本町は冬もスキーが出来ますし、最近では雪山をスノーシューで歩くツアーなども提供しています。何よりも町内には泉質の異なる温泉が4か所もあります。本町はこの豊かな自然を武器に、広島県内の心と体の癒し担当を目指して頑張っているところですので、皆様も日頃のお仕事で疲れが溜まったなと思った時には是非本町を訪れていただき、元気になって本町のファンになっていただければ幸いです。

最後になりますが、本町の豊かな自然は様々な恵みをもたらす一方、時には甚大な災害ももたらします。道路やその法面の危険性は本町のかねてからの弱点でもありますし、ひとたび災害が発生した時の被害は甚大で、その影響は長期に渡る可能性があります。そんな時に我々が頼りにさせていただきますのは、地域で活動いただいております測量設計業協会の皆様であります。

皆様方にはお身体ご自愛いただきながら、引き続き地域のためにご活躍いただきますとともに、本年が皆様方にとりまして、実り多き年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 令和4年度 経営者懇談会

開催日：令和4年12月5日（月）

会場：ひろしま国際ホテル 3階「ルビー・サファイア」

講師：トラベルセラピスト・鍼灸師 清水 正弘 様

演題：「人を癒す場のチカラとは」 ～世界の辺境・日本の里地里山からの学び～

皆さん、こんにちは。ただ今、御紹介いただきました清水といたします。私は、山県郡の安芸太田町というところに住んでおまして、御存じの方も多いたと思いますが、安芸太田町というのは広島県で一番小さな自治体です。人口も今は4,000人台ぐらいまで減ってしまいました。私、実は兵庫県姫路の生まれですが、結婚して結婚養子で安芸太田町に38歳のときから住んでいます。



安芸太田町は人が少ないんです。平生は安芸太田町にいるものですから、人と出会うよりかは動物と出会うほうが多かったです。イノシシやサル、たまにはクマとかタヌキなんかにも出会いますので、今日、久しぶりに広島市内に出てきて、本通り辺りをちょっと歩いたりして、非常にドギマギして、これはやっぱり都会というのは、ウイルスは感染するなという妙なことに改めて気づいたりしております。私のところは、昨日は殆どうちの家内以外の人間には出会っておりませんので、感染率というのは非常に田舎は低いなという思いもしております。

今日は、皆さん全員背広にネクタイの方ばかりですが、私、30代前半で背広とネクタイからおさらばした生活をしておりますので、非常に場違いな人間だと思っておりますが、そんな場違いな私をお呼びいただきましたのは、中国工務の山田さんから御紹介いただきました。実は、山田さんも私も山岳の世界というところに足を突っ込んでおりますので、その導きで今日のような大変貴重なご縁をいただきました。

正直言って、測量設計業協会という実業の世界にいらっしゃるような方に、私のような中ぶらりんな人間が何を話せばいいのかとずっと思っていたんですが、この懇談会の去年のスピーチは沖田さんという方で、その前の年は大島さんという方ですね。実は私、偶然にもこのお2人をよく存じあげておまして、2年前は大島さんが恐らく伝統芸能としての「能」のお話をされたのかなと思います。そして、昨年度はビオラ奏者の沖田さんが「音楽」ということを通じて皆さんにお話しされたのかなと思うんです。なので2年前は、いわゆる伝統芸能、そして去年は音楽という、皆さんのような実業世界の方とはちょっと違うアングルからお話をなさっていらっしゃるということで、私もちょっと安心をしています。

というのは、今日、私がお話をさせていただくことは、キーワードとしては旅、トラベル

ということと、それと癒やし、セラピーというふうに言いますが、それを併せてトラベルセラピーという、余りまだこの言葉は市民権を得てはいないですね。私の紹介のときにトラベルセラピストというふうにおっしゃっていただきましたが、トラベルセラピストという職業そのもの自体も数年前ぐらいから云われ始めて、今確立されつつあるような感じです。

じゃあ、そのトラベルセラピストって、皆さんに分かりやすく言うとしたらどういうことかと言えば、例えば添乗員という感じではないんです。もっと分かりやすく言えば、歴史をひも解いていけば、例えば日本の旅行の始まりというのは聖地への巡礼なんですね。例えばお伊勢参りなど、例えば西国お遍路。そうしたら、そういうときに先達というのがいらっしゃいますよね。いわゆる案内もするけれども、非常に現場のことをよく知っている。お伊勢参りだったら、お伊勢講なんていうのがあったりしまして、そういう聖地のことについて非常に詳しい人、お遍路もそうですね。そういう人が先達というかたちで、人々を聖なる空間へ導いていこうとするんです。言ってみたら日本の歴史のなかにおいては、私が今やっているようなトラベルセラピスト的な人は存在していたわけです。そういったことを現代の社会において復活というか、新たなスタイルで構築していけないかなという思いでいます。

ということで、今日は、さわりの部分では、なぜそういうふうなことに至ったのかという、私の17~18歳ぐらいからの旅の歴史みたいなものを御紹介しつつ、その経験をしたなかで私が何を考えたのか、そして今こういうふうな活動をするに至っているのか、それが、ひいては今日の講演のタイトルでもあります「人を癒やす場の力とは」といったところに話をさせていただければと思います。

[別掲 資料1]「人を癒やす場のチカラとは」と書いていて、そのタイトルの下に「養生旅による地方創生」と書いています。先ほど地方創生のコンサルもしていると御紹介いただきましたが、私自身、住んでいる安芸太田町とか、広島県の一番東の端にある庄原市、そういう自治体とタイアップして、自治体の魅力をいかにして旅というツールを使いながら、特に広島市内の都会の方にそういうところに来ていただいて、そして緩やかな経済還元効果もその地域に落としていくという、そういったことを具体的にやっています。

その下に「山岳ガイド&鍼灸師」となっていますが、私、実は東洋医学の鍼灸師の資格を持っています。[別掲 資料2] 左側が、いわゆる「はり・きゅう」です。「はり・きゅう」というのは、御存じの方も多いと思いますが、人間の体にツボがあるわけですね。その人の症状に合ったツボを見つけて、そこに「はり」とか「きゅう」を施していくという感じのことです。これは昔、中国が3000年ぐらい前から、中国人の人体における宇宙観みたいなものを表したんですね。昔の中国人は人間の体も小宇宙というふうに捉えて、その小宇宙でいろんなエネルギーが入り出していると考えたわけです。その出入りする場所がツボだということです。そして、そのツボに「はり」を刺して、要らないエネルギーを、邪気といいます、それを取り除いたり、逆に、いい気を入れていったりという、それが「はり・きゅう」の治療なんです。

後でこの話がそういうところに落ち着いていくんですが、私自身、いろんな旅をすることによって、私たちの住んでいる、この地球という星も一つの人体みたいなかたちで捉えられないのかなと思い始めたわけです。この地球上にいろんな場所、環境がありますが、そうい



ったところがいくつかは、「はり・きゅう」でいうところのエネルギーが出し入れできるような場所ではないのかなと思ったりもしたわけです。そこに至るには、いろんな私自身の経験と、いろんな場所に行ったという記憶みたいなものがそこにあるわけです。これから、先ほど申し上げた、さわりの部分ということで、私が 17~18 ぐらいからどういう場所に行つて、なぜこういうことを感じたのかというふうな話を申し上げます。

まずは、私、講演の話をいただいてから時間がありましたので、せっかくですから皆さんの測量設計業協会というところに、多少なりとも何か関係性があるようなことが言えないのかと思っておりました。そうすると「測量」という、その2文字に引っかかったんです。皆さんの方が当然詳しいと思いますが、「測量」という言葉は、[別掲 資料3] 上に「測量」と書いていますが、その下に「測天量地」という言葉があります。これはやはり、「はり・きゅう」と同じ古代の中国人が使っていた、いわゆる空間把握の捉え方ですよね。「測天」天を測り、そして「量地」地も量るというですね。御存じのように、昔の古代の中国人というのは、天と地、そのあいだに人、「じん」がいるというふうな捉え方をしていたわけです。これは、「はり・きゅう」の考え方ともよく似ています。

どういうことかと言うと、昔の古代の人は、天、例えば宇宙とか、そういうものと自分の住んでいる地、地球と言ってもいいでしょうね、そこを自分なりに推し量っていくことによって、そのあいだにいてる自分という、人間というものはどういう存在なのかというふうなことを考えていったはずだと思います。例えば北極星とか、そういう天体の見方とか、そういうものを育てていったのではないかと思います。ですから、この「測天量地」という言葉から「測量」という単語が生まれてくるということだと思ふんです。「はかる」という言葉も、いろんな漢字があります。計算の計という計る、それから測量の測という字、測量の量という字、いろんな漢字があります。図書館の図と書いて図り事なんてあります。「はかる」というふうなことは、昔の古代の人間にとってみたら自分の周りの空間把握、言ってみたら空間把握みたいな、そういったことに繋がっていったのではないのかなと思ふんです。

そして、自分というものは、そのなかにおいて何者なのかというようなことを考えていった。それを考えた日本人が江戸時代にいたと思ふんです。それが日本の測量を一番最初にしたと云われている伊能忠敬ではないのかと思ったりもしました。御存じのように、伊能忠敬というのは50歳で家督を自分の息子に譲って、その後は日本全国を測量して回るわけです。当然のことながら、それまでは日本の正確な地図のようなものが全くなかったわけです。そうすると50歳になって、江戸時代の50歳といったら今の70歳ぐらいになるわけです。それぐらいの年齢になったにもかかわらず、自分というものが何なのかみたいな、自分の住んでいるところというのは、どういうふうなところなのかみたいな、それを空間的に把握したいという、そういう未知なる何かを「はかる」ために、伊能忠敬は日本全国を測量に行ったのではないのかなと思ふんです。そういうことから言うと、今から私もそういう旅の歴史みたいなものを御紹介していくわけですが、伊能忠敬と比較すると非常におこがましいですが、私自身も何か自分の未知なるものを「はかる」ために旅に出たような気がします。

まず私は、高校時代、兵庫県の姫路市でしたが、ワンダーフォーゲル部 [別掲 資料4] に入ります。そして山歩きを始めるんです。その山歩きが高じていって、大学的时候には、

山歩きプラス自分の住んでいる日本という国を知りたいという思いがあつて。測量設計業協会の方でしたら、私以上にお詳しいと思うんですが、日本列島の真ん中に、いわゆる中央構造線というのが走りますよね。中央構造線の静岡県から新潟県に、長野県を通じて行くところがフォッサマグナと云われているところです。このフォッサマグナというところで東日本と西日本が当初は分かっていたのが、そこでくっつくわけです。大地溝帯ができて、ここに火山が非常に多いわけです。並びに、ここが日本列島のなかで一番幅が広いとも云われたりしております。そうしたら、一番幅が広いところだったら、自分の足で、自分の体でそれを感じてやろうじゃないかというので、大学3年のときに、[別掲 資料5] 日本海の赤いラインの一番上のところが糸魚川というところですが、そこから入山して、北アルプス連山を縦走いたしました。

そして、赤いラインと黄色いラインとの接点のところが松本というところですよ。松本まで下り、そこから事前にゴムボートを運んでおいたんですが、黄色いラインと赤いラインとの接点のところ、松本プラス諏訪湖があるんですね。その諏訪湖から天竜川が流れ出して、最終的には浜松、黄色いラインの一番下、いわゆる太平洋に注いでいくんです。これを18日間～19日間ぐらいかけて、日本海で汲んだ水を当時のペットボトルに入れて太平洋に流すんだという、それをする行為で、このフォッサマグナという一番幅の広いところを縦走するという、それを自分の体で体得してみたいというんですね。それが伊能忠敬さんと同じように、何か自分の住んでいる日本という国のスケール感というか、景色もそうですが、自然環境もそうですけど、そういうことを自分で感じてみたいという行動も取りました。

そういうことをやっていくと、山岳の世界にいたりしたものですから、どうしても海外に目が向いていきます。やはりヒマラヤ山脈というところに目が向くんですね。ヒマラヤ山脈に目が向けば向くほど、そこに暮らしている人にも目が向き始めます。[別掲 資料6] これはチベットの精神的な指導者であるダライ・ラマ14世、その当時はまだ40代です、今はもう80代ですが。私が20歳のときですが、京都にダライ・ラマさんが来られて、若気の至りですが、都ホテルのスイートルームにいらっしゃいましたが、その前まで押しかけていったんです。そして約1時間半ぐらい、お話を通訳を交えてすることができました。そして、このダライ・ラマさんの人柄に非常に惚れてしまったんです。ヒマラヤ山脈の遠征に行こうという思いがあつたんですが、それ以上にヒマラヤ山脈の山麓に住んでいる人たちの精神的な世界みたいなものに非常に憧れてしまいました。

実は、たまたま偶然ですが、[別掲 資料7] 昨日の中国新聞の読書欄に沢木耕太郎さんの最近出された本の書評が書いてありました。それは沢木耕太郎さんの『天路の旅人』という作品です。単行本で600ページ近くありますから非常に分厚い本ですが、この本で沢木耕太郎さんが取り上げられたのが、第二次世界大戦中に日本軍のスパイとして中国大陸を横断して、そしてチベットに入って、第二次世界大戦が終わった後もチベットとかヒマラヤとかネパールとか、そういうところを8年間にわたってずっと放浪の旅をしていた西川一三さんという人がいる、もう亡くなっていらっしゃいますけど。その旅人をドキュメントとして捉えた作品が、この『天路の旅人』です。私、学生のとときに西川一三さんの本を読んで、非常に感激を受けて、何度も何度もチベットに潜入してやろうというような活動もしておりました。

実は、その西川一三さんよりもっと前に、明治の時代にチベットに潜入した河口慧海さんというお坊さんがいらっしゃるんですが、その方の足跡を辿るような調査隊に参加したときの写真が〔別掲 資料7〕右側の写真です。こういった活動をしたり、やはりヒマラヤにも憧れがまだ残っていましたので、世界最高峰のエベレストへの遠征などに参加したりしました。

そういう活動をすればするほど、自分の住んでいる地球というものが、やっぱりもう教科書的なものじゃなくて、例えばヒマラヤ山脈というのは、後でもお話ししますが、地球の造山活動というよりか、プレートテクトニクス（学説）と云いますが、2億5000万年前ぐらいにユーラシア大陸とインド側大陸とが接近して、ぶつかって隆起したのが、このヒマラヤ山脈なんです。実際に18のときに初めてヒマラヤにも行ったんですが、そのときにヒマラヤ山脈を見ると、もうこの世のものとは思えないんです。ただただ最初ヒマラヤ山脈に接したときには、うれしいとか悲しいとか関係なく、ただただ涙が出てきました。地球上にこんな素晴らしい景観があるんだという、そういうふうなことです。

〔別掲 資料8〕私が立っている左手は、ロンブク氷河という氷河です。これはエベレストのベースキャンプの辺りぐらいからずっと流れてきている氷河ですが、この氷河は動いています。エベレストのベースキャンプ辺りで、夜中にこの氷河の上にテントを張るんですね。寝袋で寝ていましたら、自分の背中の下からゴトツという音が聞こえるんです。それは、氷河が動いたときの音なんです。そういうですね、自分の住んでいる地球という星が生きているという感触を折に触れて感じていきました。そうなるってくると、どんどん自分の住んでいる地球というのは、どういうものなのかという興味がどんどん好奇心が向上していきます。

それで、〔別掲 資料9〕地球の一番てっぺんの北極点というところです。残念ながら私は犬ぞりでは行ってません。こういう軽飛行機で行ったりしたんです。北極点というところは、御存じの方は多いと思いますが、ここは陸地じゃないんです。ここは海の上に氷が浮かんでいるんです。その氷の厚さが厚ければ10メートルぐらいもあるんですね。昔映画でタイタニック号の悲劇がありました。こういう北極圏を浮遊している巨大な氷山がタイタニックという旅客船にぶち当たって、そしてタイタニックが沈んでいくという。ですから、この北極海には、とてつもなくどでかい氷塊というのが浮かんでいます。

私たちもこの軽飛行機に乗って、パイロットが飛行機の計器で限りなく北緯、北極点に近づいていく、そういうところまで行ってクルクル、クルクル舞い降りながら氷の上に着陸じゃなくて着氷したんです。そこはマイナス28度ぐらいの世界でして、当然生き物も何も棲んでおりませんから、全く音がしません。絶対的な無の世界というのが、こういうふうなものなんだなというですね。ここで私が写っておりますが、この立っているところで、軽く半径1メートルぐらいで一周円を描いたんです。そして日本に帰って、うちの家族に世界で一番速い地球一周みたいなことを言った記憶もあります。これが地球の一番てっぺんなんですね。行ったのが大体40代の前半ぐらいでした。

地球のてっぺんに行ったら、やっぱり今度は地球の一番下にも行きたいなと。そして自分自身でこの地球という星を、いわゆるサンドイッチしたいなという思いもあって、それで、南極大陸、厳密に言えば南極大陸のちょっと横にあるキングジョージ島〔別掲 資料10〕という、アルゼンチンの観測地があるようなところですが、そこにも足を伸ばしたりしました。

ここはペンギンが沢山いて、いわゆるペンギンの群生地になっているんです。見ていただいたら分かるように、全然南極といっても氷はありません。私も行くときにいろんなことを調べて行ったんですが、南極といったら、やっぱり南極観測隊なんかの映像でブリザードが吹いて、非常に自然条件が厳しいというイメージを持たれると思うんですが。ただ、南極も季節があって、これは夏なんですよ。

夏になると、先ほどの北極点ではマイナス 28 度もありましたが、南極の夏の時期はマイナス 2 度でした。なおかつ南半球ですから、北半球の日本が冬場に行ったんです。南極まで 17~18 日間ぐらいかけて行ったんですが、そして日本に帰ってきたときに、その当時の成田空港で日本の朝のニュースを見たんですが、北海道がマイナス 25 度あると。ですから私たちのイメージの南極も、夏には日本の北海道の冬よりも暖かいという自然環境があるんだなというですね、ある意味で、教科書では分かっていたけれども、やっぱり実際に自分の足跡を印してみると百聞は一見にしかずという、そういうのが分かるような気がいたしました。

こういった、いろんなですね、この北極点、南極、そしてヒマラヤ山脈とかチベットとか、それ以外にも中国のタクラマカン砂漠というところに行ったこともあります。そして、アフリカにも何度か参りました。サハラ砂漠のほうにも行ったり、南米のほうにも足を伸ばしたりしておりました。どんどんそういうところに、世界の山岳地帯とか辺境地帯とか、余り文明圏ではないようなところを選んで行ったんです。そういうところに行けば行くほど自然環境の素晴らしさにも驚くんですけど、そこに住んでいる人たちの表情にどんどん引かれていきました。特に子供たちとか、年配者の方々の表情なんですよ。

少し紹介していきますが、[別掲 資料 11] お釈迦さんが生まれたルンビニという、ネパールにあるところです。ネパールでも、こういう標高の低いところはあるんです。そういうところで私の友人に、とある朝、牛車の荷台に載せてもらって、ちょっと朝の散歩に出かけようと言われて散歩に出かけました。そうしたら右側の、ちょっとこんもりとしたような森の近くにきたんです。そうすると、この森の中から子供たちの声が聞こえてきました。[別掲 資料 12] これは朝の 6 時ぐらいです。6 時ぐらいに子供たちの声が聞こえてきて、その声に導かれて、この森の中に入ってみると、こんな風景が広がっていました。これは学校なんです。学校なんですけど、皆さんもお分かりのように校舎がありません。なぜ校舎がないかといったら、校舎が造れるような財政状態でもないということが一つと、もう一つは、ここは非常に標高が低くて暑いんです。暑いから校舎のような壁を造ってしまうと蒸し風呂のような状態になってしまうわけです。ですから、こういう一本一本の木の下に、それぞれの学年の子たちが集まって、しかし先生は 1 人だけです。あの奥のほうに、椅子に座っている人が 1 人だけでした。

その先生が一本一本の木の下に座っている子供たち、各学年の子供たちにそれぞれの課題を与えていらっしゃるんです。その先生が一番大きな学年の子供たちにいろんなことを対面で教えていらっしゃる。こういう姿を見たときに、ふと思ったんです。ここはお釈迦さんが生まれたルンビニという土地です。ということは、お釈迦さんが生まれてから当然、この写真を撮ったときでもう 2000 年以上ぐらいが経っているわけですけど、お釈迦さんは菩提樹の下で一応悟りを開いたというような話がありますし、お釈迦さんがいろんな菩提樹を含め

た木の下でお弟子さんたちにいろんな話をしたとかみみたいなことも伝わっておりますよね。

そうすると、こういうネパールなんていうところの辺りな田舎では、お釈迦さんの時代とほぼ変わらないような、人と人との関係性、学校の先生と生徒という関係性ですが、こういうものがまだまだ残っているなということに改めて気がつかされたりしました。

今度は一変してですね、寒いグリーンランドというところに行ったことがあります。探検家・冒険家の植村直己さんが、このグリーンランドで犬ぞりで横断したりしたというところなんです。その疑似体験みたいなことをしようというので、このグリーンランドで犬ぞりに乗りました。[別掲 資料 13] 私が犬ぞりに乗って写真を撮っているんですが、当然私は犬ぞりを動かすことができませんので、犬ぞりの御者台には 40 代ぐらいの父親が座っておいりました。そして、その横には小学校の高学年ぐらいの男の子がちょこっと座っていたんです。それで、この犬ぞりでずっと、とんでもなく寒いところを走ったりしたんですが、そのときの忘れられない光景がありました。それはどういう光景だったかという、その御者台に座っていた父親と息子との関係性だったんです。[別掲 資料 14] その御者台に座っていた左側が父親で、右側が子どもなんです。この 2 人の関係性がどういうふうに私に映ったのかといったら、こういう北極圏では犬ぞりを使えないことには生きていけないんです。

この父親が犬ぞりのムチを、とてつもなく長いムチなんです。それを振って犬ぞりを進めていくんです。この子どもが、御者台の父親のすぐ横でムチは持っていないんですけど、父親のムチを振る右手を見よう見まねで見ながら、自分でも空手でムチを打つような仕草をしているわけです。今の日本では、殆どこういう見よう見まねで何かを覚えていくということはありませんし、例えば、それが父親が息子に対して生きていくための必須条件の技というか、そういうものを教えていこうというようなことが今の時代には殆どないことですね。そういったかたちのことが、まだまだこの地球上のいろんな各地では、まだ継承されているなということも思いました。

そして、中国のタクラマカン砂漠に行ったときに、新疆ウイグルという、今ちょうど中国がここに対して非常に人種差別みたいなこともやっているということでも有名なところですが、新疆ウイグルというのはイスラム教徒の人たちが多いんですよ。イスラム教徒の人たちが多いなかで、そのバザールを片隅のところで撮った写真 [別掲 資料 15] ですが、私は完璧に異邦人なわけです。その異邦人に対する子供たちの視線と顔の表情というのは、明らかに好奇心に溢れているわけです。おまえは何者かというようなことも含めて、私に対して全身で好奇の眼差しを向けている。こういった子供たち、変な話ですが、例えば戦争が終わった後にアメリカ兵がジープに乗ってきたときに、私はその時代に生きていませんが、ギブミーチューインガムとかチョコレートみたいなことで、小さな日本の子供たちが追いかけていったという話はよく聞きます。

ただ、そのギブミーチョコレートとか、ギブミーチューインガムではないかもしれないけれども、そのときの戦後すぐの小さな子供たちというのは、アメリカ兵という存在に対してとてつもなく好奇、関心の目を向けていたはずだと思うんです。ところが、今やインターネットの時代ですから、バーチャルの世界がどんどん進んでいきますので、今の日本の小学校低学年ぐらいの子どもがこんな表情をするというのは、なかなかなくなってしまうん

じゃないのかなということも感じたりしました。

そして、ネパールという国ですが、ネパールはヒンズー教の国でもあるんです。ヒンズー教の国で、実はヒンズー教の人たちというのは、亡くなったときに川の河畔で茶毘にふされるんです。茶毘にふされて、焼いた遺灰をその川に流す。その川というのは、やがてインドのガンジス川に注いでいくんですね。ガンジス川がベンガル湾に注いでいきます。そしてベンガル湾に注がれた水というのは蒸発して、そして風に運ばれてヒマラヤのほうにまた行って、そこで雨とか雪になってということで、要は循環するという考え方でもあるんですよ。

[別掲 資料 16] 写真は、ネパールのヒンズー教徒の年老いた方々が自分の死ぬとき、死期をある程度悟ったときに、田舎とか、そういうところから茶毘にふされる川の河畔にある「死を待つ家」という、そういう家に自主的に入って来るんです。入ってきて、長い人は1年～2年そこで生活するみたいですが、短い人は入った翌日ぐらいに亡くなってしまうというようなことなんです。

彼らの死生観というのは、そういう水に乗って自分の遺灰が流されて、大いなる自然の循環のなかに自分の命が、死後の命が入っていくという、輪廻転生のような考え方もあるわけですが、そういう考え方に基づいて、この茶毘にふされるために「死を待つ家」というところに入って来るんです。もう一つ、私がこの「死を待つ家」について取材をしていて一番感動したのは、食事したり泊まったりする、そうしたら泊まるためには泊まるスペース、日本で言うところの布団とか、そういうものが必要なわけです。それを彼らは自分たちの家から運んで来るはずが運ばないんです。なぜ運ばないのかといたら、実はネパールのある程度お金持ちの方が、いわゆる篤志家と云われる方々がお金を寄進して、その寄進されたお金でこの「死を待つ家」というのが運営されているというのを聞きました。

ですから、ここに集まって来られている方々というのは、殆ど地方に住んでいる農民の方ですから、そんなにお金もないわけです。そういった方々を都会に住んでいる、ある程度実業でお金を儲けたような篤志家の方々がヒンズー教の考え方に乗って、こういう自分とは全く縁もゆかりも無いような人の死を迎えるまでのあいだの衣食住を、ボランティア精神を発揮してやっているという。私たちは、どうしてもインドとかネパールといたら、まだまだ衛生状態もよくないとか、経済状態もよくないとか、そういう考え方のほうが先に立つかもしれないですが、実は、こういう人と人との関係性の上においては、言ってみたら言葉は変ですが、先進的な考え方をやっているようにも思いました。

そういういろんな世界の各地の秘境とか辺境とかを回っていったわけですが、それをすればするほど、先ほどのような、いろんな死生観とか、例えば教育観とか、健康感とか、そういうものが、やっぱり今の現代の日本とはどれだけ違っているのかというようなことを思わざるを得なかったんです。ところが、先ほどの新疆ウイグルの小さな子供たちの目のように、先ほどのヒンズー教徒の「死を待つ家」の老人たちの顔の表情といいですね、今の日本の現代の子供たちとか、年老いた人たちの不安と不満と不平に満ち溢れたような表情が殆どないわけですね。[別掲 資料 17] 真ん中に黄色い字で、物質的な充足感というものより心の安寧感、最近はやりの安心・安全という言葉は使いたくないんです。もっと奥の深い、心が非常に安寧するという、そういったことを世界の秘境とか辺境に住んでいる人たちは大切にしてい

いるんじゃないのかなと思ったりもしました。その先にあるのは、やはり人にとって何が幸せなのか、そういうことを考えていかざるを得ないなと思ったんです。

冒頭の話に戻らせていただいたら、伊能忠敬さんのように、何かをはかるために、何かを推し量るために日本全国の測量に出たと。何か未知なるものを求めて、旅に出たはずだと思うんですね。それと同じように、私もやはり、いろんな旅をすることによって未知なるものを追い求めていったと思うんですが、その先にあったのは、この疑問符だったんです。人間にとって何が幸せなのかというようなこと、これについて考えざるを得ないなということになってきます。そうすると、先ほどのヒマラヤではないですが、[別掲 資料 18] 秘境とか辺境というところは数百年ぐらいの時間軸でいろんなものを考えています。幸せの在り方とか、例えば教育とか、人に何かを伝えるというような在り方とか、人生の在り方とか、そして家族とか家庭の在り方とか。そういったものを短絡的に、短期的なスパンで考えているのではなくて、数百年ぐらいの時間軸で彼らは考えているということに気がつきます。

先ほど申し上げましたように、このヒマラヤ山脈 [別掲 資料 19]、実際にこの世のものと思われない、でも、この世のものですけど、そういうヒマラヤ山脈。これが2億 5000 万年前ぐらいから大陸と大陸とがぶつかって隆起して、今でも隆起しています。ですから、2015年に大きな地震がネパールであったんですが、そういうものも、まだまだヒマラヤ山脈は生きているという証拠でもあるんですね。

[別掲 資料 20] こういうふうな人知を超えるような自然景観とか自然現象とか、そういうものを見てしまいますと、何か本当に日常の生活のせこせこした感じのことじゃなくて、それを超越するような大いなるものというんですね、これを例えば西欧の中世の時代なんかはGod というふうに言い求めたのかもしれませんが、そういう何か超越するようなもの、そういうものとの出会い体験みたいなものを感じました。何かですね、地球のなかの自分は一員だというようなことも、地球に包まれ感とかですね、先ほどの安寧ということも言いましたけど、絶対的に何かに支えられている。自分は、いろんな不安とか不満とかがあったとしても、最終的には、自分は絶対的に何かに守られているという、そういう感じを自分の旅のなかで感じていきました。

そういうものが今度帰って、私も 62 歳ですが、それぐらいの年齢になってきたら、今まで自分がそういうものを体得してきた感じのことというのは、今度は逆に何かに対して感謝しているという、それがいわゆる地球上の全てへの命と存在みたいな、そういうものに対する感謝みたいなことになっていっているのかなと今思うんです。そういう世界の山岳・辺境地帯に住んでいる人たちというのは、[別掲 資料 21] 何か絶対的な何者かに支えられて、そして昨日までの経験とか知恵というものを継承して、今日という日の生きるということをし、そして明日以降の未来というものに対して、ほんのわずかかもしれないけれども、夢というものを見ているというようなことを、これは世界の山岳・辺境地帯の人々と接したら、エリアは違っていても同じようなことは感じます。

ですから、私自身思うんですが、最近明治時代のことに対して非常に関心を持って、いろんな文献を読んだりしていますが、特に明治維新を過ぎた辺りの人たちというのは、昨日までの江戸時代の経験と知恵を生かし、そして明治維新という新しくなった今という時代を生

き、そして自分たちの次の世代に何かを託していこうという、そういうものが明治の人の眼差しにもあったのかなと思ったりもするんです。日本に帰って来るたびに、自分の国では、縁とか、つながりとか、そういうものがどんどん、地域の縁もそうですし、自分の過去の歴史との縁、そして自然環境との縁みたいな、そういうものがどんどん喪失していくのが高度経済成長時代に入ってから日本だったのではないのかなと思います。これはよく云われることですが、現代の我々も含めた日本人というのは何を忘れているのかなというですね。

[別掲 資料 22] その5つぐらいを挙げてみましたが、やはり旬を感じるような食とか、例えば季節感を感じるような歳時記みたいなものというのは、殆ど今の日本人というのはありませんね。よくも悪くもビニール栽培みたいなもので旬を感じなくなったような、野菜がいつでも食べれるということ、言ってみたら、季節感があるような生活。それから、先ほど申し上げました祖先とか子孫、自分の未来に対する想像力、これは命の連続性ということだと思っんですが、今の短絡的な、経済的な繁栄があればいいのではないかと考えている人が多いのではないかと思います。それから次は、やはり宗教界なんかについてです。慈しみのあるような眼差しというのが、基本的にいろんな宗教とか信仰の上においてはあるべきにもかかわらず、今、とある宗教団体のことなんかでも云われておりますが、利己と利他というのがボーダーレスになってしまっている。そういうふうな時代でもないのかなと思います。

そして自然との距離感というのは、これはよく地球温暖化なんかでも云われるようなことですが、他の命に対する想像力みたいなものがちょっと足りないというですね。それをトータルしていくと、やっぱり節度とか慎み深さみたいなものがなくなっていると思うわけです。こういったことを日本に帰国して、帰れば帰るほど強く感じたわけです。ただ、38歳で私は安芸太田町に引っ越したと言いましたが、38で引っ越して、中国山地、特に中山間地域をけっこう歩きました。そうすると、意外や意外、私の住んでいる安芸太田町も含め、中山間地域というところには、まだまだ過去の遺産というのが少なからず残っている。[別掲 資料 23] 例えば、一番上に白い字で書いている「ズンギ」という言葉があります。御存じの方が多いたと思いますが、私は関西の人間でしたので、安芸太田町に引っ越してきて、最初うちの家内の家族関係でお葬式がありました。私が受付にいたんですが、そのときに私の全く知らない人がやって来て、ちょっと遠方から来られた方で、「君んとことは、ズンギがあるからね」と言われた。その「ズンギ」という意味が全く分かりませんでした。

後で調べれば、日本でよく言う仁義という言葉と兄弟のような言葉なわけですよ。親戚とか、兄弟とか、そういう関係性ではなく、血縁関係が全くないけれども、昔の中山間地域では、一山、二山越えたところに住んでいる人とズンギを交わしたというですね。それはどういうことかと言ったら、要は、親戚、兄弟ではないんだけど、ズンギを交わしたところに何か、すわ、一大事があったら、ズンギを交わしたことによって仁義を果たさないといけないということです。何か助けないといけないということですね。それが現代になったら、お葬式のときに、おまえのところとはズンギがあるから、ズンギ料みたいなものを御香料とは別個にちょっと払うというぐらいのような残り方をしているんですが、調べていくと、もっと以前は、もっと以前と言っても戦前ぐらいまでは、この「ズンギ」というのは随分と相



互扶助のネットワーク網だったということです。

そういったことがまだまだ、ついこのあいだ70年とか80年ぐらい前には、この中山間地域ではそういう関係性が残っていた。同じように「同行」とか「講」とかということがあります。そういう互助組織がまだまだ継承されているところもあり、それから神楽とか伝統芸能みたいなものを、私たちの安芸太田町でも石見神楽の流れをくむ神楽というのが継承されています。そして、古事記とか出雲神話、特に出雲地方なんかは出雲神話の舞台ではあるんですが、特に私がタイアップしている庄原市というのは、古事記の物語、比婆山なんていうのはそうですね。伊邪那岐（いざなぎ）と伊邪那美（いざなみ）という日本の国を生んだ、その神様の女性の神が葬られたと云われている候補地の一つです。そういう古事記の伝説とか、出雲神話のような古代の歴史みたいなものが、この西中国山地とか、その辺りにはまだまだ残っているじゃないか。

そして、今度は人の営みからいうと、たたら製鉄とか炭焼きとかですね、柚（そま）、柚人ですね。いわゆる木材関係のことをやるような人、そういう地場産業みたいなものがけっこう残っていたわけです。私は安芸太田町の筒賀というところに住んでいますが、そこは昔、村有林で有名だったんです。平成の合併で安芸太田町に入りますが、それまでは筒賀村だったんです。御存じの方も多いと思いますが、広島県では最後まで5つの「村」が残っていました。その内の一つが私の住んでいる筒賀村です。なぜ、その「村」が最後まで残ったかといったら、やはり村有林があったんですね。村有林があって、そこからの収益みたいなもので、いろんな福利施設をつくったり、学校の校舎を再建したりということをやりました。

その村有林が、明治22年に明治憲法が制定されますが、そのときに村有林を国が強引に国有林化しようとしたことがありました。それに対して、明治の筒賀村にいた人たちは東京まで陳情に行き、裁判まで起こして、ここは実は昔から自分たちの村有林だった、入会山の時代からですね。そういったことを訴えて、明治23年に村有林に払戻しをしているんです。そういう歴史みたいなものが、私の住んでいる安芸太田町の筒賀というところにもあって。ということは、要は、自分たちの住んでいる環境が産業と同時に保水にもなり、それから治水にもなりですね、災害に対しても対策となるような、そういった大きな環境として自分たちの産業を考えていたというんですね。そういった知恵みたいなものが溢れているということが、38になって安芸太田にやってくる、暮らせば暮らすほど分かってきます。それがまだまだ継承されている部分があるということですね。

そういったことをざっくりとまとめて言うと、「在来知」という言葉があります。その土地に根づいた営みから生まれた伝統的な知恵ということです。その知恵は、いわゆる技でもあり、先ほどの互助組織というふうなネットワーク網であったり、そういったことも全部ひっくるめて、この「在来知」というものが残っていく。この「在来知」ということに自分自身が気がつけば気がつくほど、言ってみたら、自分が若い頃から世界の山岳・辺境地域に旅をしたときに、その老人とか子供たちが、なぜこんなに朗らかな、いわゆる何かに支えられているというような表情をなぜこんなにしているのか、そして好奇心に溢れた表情をするのかということ考えたときに、この「在来知」という言葉で、アングルで見えていけないかなと思ったわけです。

そうすると、この日本にも戦前ぐらいまで濃厚に継承されてきた地域の「在来知」というものが、世界の山岳・辺境地域にはまだまだ息づいているわけです。その息づいた「在来知」のなかでいろんな、先ほど申し上げたようなルンビニの学校の仕組みですとか、それからネパールの「死を待つ家」に対して篤志家がお金を出しというですね、そういうふうな、いわゆる互助組織みたいなものがまだまだ残っているんじゃないのかなというふうに、だんだん気がついていくわけです。世界の山岳・辺境地帯のみならず、日本の中山間地域、それを里地・里山と私は呼んでいるんですが、そういうところには、この「在来知」というものがまだまだ残っているなと思います。

[別掲 資料 24] 例えば写真の左上は、鳥取県の投入堂（なげいれどう）という山岳修験道で有名なところ。役（えん）の行者さんが空を飛んできて、このお社のなかに入ったというですね。でも、この投入堂のところなんかはですね、いわゆる修験者というのが、明治5年に「修験道廃止令」というのが出るんですが、その修験道廃止令が出たときに日本全国に17万人の山伏がいたと云われています。その当時の日本の人口は3,000万人ぐらいですから、3,000万人のなかの17万人山伏がいたというのは、とてつもないぐらいの人口なわけ。一つの文化です。彼らは何をしたのかといたら、山に入って修行をするわけです。そこでいろんなものを、靈感も含めた上で何かを感じ取って、それを里に下りてきて、その里人に、今で言うところちょっと怪しげかもしれませんが、治療をしたりとか、体の治療だけじゃなくて、精神的なものも治療してあげたり、いわゆるセラピストです。そういったかたちの文化の一つをこの投入堂も象徴しているなと思いますし、実は、広島宮島の宮島に弥山がありますね。弥山の弥という字がつく山というのは、殆ど修験道の山です。

ですから、宮島の弥山も修験道の山です。弘法大師空海さんがそこで修験をして、そのときに護摩をたいた火が「消えずの火」となって今の「霊火堂」の火になっているということがあります。来年が弘法大師さんの記念する年ですから、宮島辺りでは弘法大師を祀るような、いろんな行事が開かれるはずだと思います。

そして写真の右上は、島根県の奥出雲町にある「日刀保（にっとうほ）たたら」という、日本美術刀剣保存協会（略称「日刀保」）が復元した、日本で唯一ここにしか残っていない古代の製鉄、鉄をつくる工法ですね、砂鉄からつくるといってわけなんです。私が住んでいる安芸太田町も加計町というところがあります、加えるに計算と書いて加計、加計さんというのは、正にこの「たたら」で栄えた人です。ということは、この西中国山地というのは、昔の産業というのは「たたら」が非常に多かったと聞きます。ただ、この「たたら」というのも、やはり循環型の産業だったということが後の時代に分かっています。炭をつくるために山を伐採していくわけですが、伐採したところは必ずまた植林をしていくということもあつたりということを経験した方からお聞きしたりしました。

そして写真の左下は、比婆山のすぐ近くにある熊野神社というところ。ここに行かれていない方がいらっしゃいましたら、是非行ってみてください。スギの巨木が林立していて、ちょっとこの空間に入るだけで、もう何か世界が違うような場所になります。ここも言ってみたら、先ほど申し上げた古事記の舞台でもあるんです。そして写真の右下は、山口県の萩往還です。これが、いわゆる幕末から明治にかけて、勤王の志士たちが萩城下からここを

駆け抜けたという感じのですね、そういう場所があったりします。ですから鳥取県、島根県、広島県、山口県、岡山もあるんですが入っていませんが、そういった我々の住んでいる中国地方というのは、まだまだいろんな考え方、技、そして、その互助組織、そして信仰という分野における「在来知」の宝庫じゃないのかなと思ったりもしました。

そういうことを感じ取っていった私が、今これから何をしたいかということに移らせていただくのですが、先ほどから申し上げた「在来知」というものが継承されているところというのは、この私たちの住んでいる広島県、中国地方には、まだまだあるなというふうなことを思っています。ただ、それに安心はしていません。殆どなくなりつつあるんですね。私の住んでいる安芸太田町でも、私が結婚して 38 のときにやってきて、それから 15 年ぐらいいは、必ず集落単位でお葬式を出していました。

ですから、あそこのお婆さんがちょっと危なそうやぞというときには、サラリーマンで働いていた人はなんとか金曜の晩に亡くなってくれみたいな、そうすると週末にお通夜とお葬式になるというですね。ところが、昔の人は農業をやっていますから、そんなこと関係なく、いつ亡くなっても必ず集落から男衆 1 人女衆 1 人が出て、仏の宿をつくりいの、そのお葬式の会場もセティングしいのみたいに、セティングするようなものが、その檀那寺というか、お寺に保管されているんです。そこから、お葬式があるときには男衆が出してきて、そしてセティングする。その間に、女衆が仏の宿で昔ながらのお葬式のときの料理もつくる。これが、今から 20 年ぐらい前までは私の地区でも、私の集落でもやっておりました。

ところが今や、もう超高齢化になってしましまして人手がいないんですね。今私は 62 ですけど、私が集落で一番若いんですよ。そうすると男衆もいない、女衆も殆どいない。そうなったら、お葬式をみんなで、集落で送り出してあげたいにもかかわらず、昔ながらのやり方ができない。だから、今から 15 年前ぐらいからは農協さんをお願いしているんです。そうするとやっぱり、その集落で、互助組織でいろんな助け合いをしてきた長老の人が亡くなったら、その集落で送り出してあげようとするにもかかわらず、それができないという状況になってしまっています。でも考えてみたら、そういうふうな、お互いに若い頃から助け合いながらやってきた人間の、自分の目上の人間が亡くなったときには、その人間にお世話になったから、お葬式をみんなで手づくりでやってあげて、送り出してあげようやといったことというのは、亡くなった人、並びに、その遺族の方々にとってみればとてつもなく癒やされる行為ですよ。

農協さんのことを悪く言うわけじゃないんですが、業者に任すとスムーズに行くかもしれませんが、そこで司会をする人は、亡くなった人と接していないわけです。私たちの集落でお葬式を出したときには、集落の男衆の 1 人が司会進行役をします。たどたどしい案内ではあるんですが、言葉も噛みながらではあるんですが、亡くなった人との関係性の深さみたいなものが非常に滲み出るような言葉なんです。そういった言葉が発せられると、やはり遺族の方は非常に癒やされます。ということは、要は人を癒やすような場の力というのは、先ほどから申し上げましたように、「在来知」みたいなものが残っている、継承されているような場所が人を癒やすような場所なのではないのかなと思ったりするんです。

それをまとめたりすると、[別掲 資料 25] 白い部分です。人を癒やすような場というもの

は、どういうことなのかといたら、効率よりも情け、「情」とか「絆」みたいなものですね。そういうものを優先するような生活が送れている場所、並びに、やはり大地からの恵みみたいなものに日々感謝、素直な感謝ができるような生活をしている場所。そして他の人間のみならず、全ての生き物の命のリズム、例えば季節感もそうですね、そういうものを尊重しながら人間が共生していく、そういうことができているような生活をしている場というところに「在来知」が生まれるし、そこから人を癒やすような力も生まれるんじゃないのかなと思うんです。それを考えてみたら、最近はやりの言葉でサステイナブルな、SDGs みたいなことを云われますが、正にその生活そのものじゃないのかなと思うんです。

今我々がサステイナブルで、持続可能で、SDGs 的な生活をみたいなことを、コマーシャルでも流れたりしますが、そういったことというのは意外と私たちのちょっと前ぐらいの人たちが実際の生活でやっていたことなんじゃないのかなという。私は過去に帰れと言っているわけじゃありません。過去にあった、そういうふうな継承されてきた「在来知」のなかに、現代の生活に活かされるものが必ずあるはずじゃないのかなと思うんです。そういうものが新たな、私たちにとっての 21 世紀に住む人間に幸せというものの在り方を考え直させる機会になるんじゃないのかなと思うんです。

最後に申し上げたいのは、幸せの尺度というものを測り直し、測るということは測量ですから、測り直して、新たに設計する。正に皆さんの測量設計業協会というのは、いろんな道路とか、いろんな施設、そういうものに対しての実業的なことをやっていらっしゃると思いますが、そういったことというのは、ひいては自分たちの次の世代の人間の幸せをつくるための尺度を測り直して、測量し直して、設計していくというですね、そういったことにも繋がっていらっしゃるんじゃないのかなというような、そんな思いもしました。

そういった SDGs 的な、サステイナブルな幸せを重点に置いた国というのがあります。皆さんに資料 [別掲 配付資料] としてお渡ししているヒマラヤの国、ブータンという国です。非常に小さな国ですけど、ブータンという国は GDP (国内総生産) ではなくて、GNH (国民総幸福量) を指標にしています。Gross National Happiness というのですが、幸福量という言葉によって国の発展というのを指針づけているんですね。ここは、幾度も幾度も行って、非常に私にとっても定点観測地点というようなかたちのものになっています。実はここ、広島と非常に関係が深いです。広島生まれの広島育ちの女性の方がブータンに今住んでいらっしゃる、もう 30 年ぐらい前になりますが、そこでブータンのこういう GNH の考え方というのを、いろんな日本語でも発信していらっしゃいます。ですから是非、もし今日のこのご縁を機会に関心を持っていただけたら、ヒマラヤの国のブータンという国がどういう方向性に歩もうとしているのかということに関しても、もし何かの機会があれば、見ていただければありがたいかなと思います。

そういうことで、私のお話を終わらせていただこうと思います。どうも皆さん、御清聴ありがとうございました。

※ 別掲資料は、講演当日のスクリーン上のスライド (一部) です。

# 人を癒す場のチカラとは

～世界の辺境・日本の里地里山からの学び～

## 養生旅による地方創生

(山岳ガイド & 鍼灸師)

トラベルセラピー(旅の癒し術)・地球の養生場とは

人体のツボ＝地球のツボ⇒秘境辺境・里地里山



「資料 1」

「測量」⇒ 伊能忠敬も、「測天量地」という言葉を使っている。

50歳で家業を子供に任せ、55歳で蝦夷地までの測量を行い、73歳で亡くなるまで全国各地の測量に従事した。

(大崎下島・御手洗にも資料がある)

「測天量地」⇒ 天文観測の「測天」と土地測量の「量地」

- 時間や程度を調べる 「計る」 ● 長さ・深さなどを調べる 「測る」
- 重さや容積を調べる 「量る」

伊能忠敬も、未知なる何かを「はかる」為に旅に出た？

「資料 3」

「資料 2」

## 高校時代から山登りを始める



「資料 4」

# フォッサマグナ探査(北アルプス+天竜川)



# ひとつの微笑みが人生の応援歌ともなる



「資料5」

「資料6」

# チベットへの潜入



「資料7」

# 世界最高峰エベレストへの遠征



「資料8」

北極点はマイナス28度・音の無い白一色の世界



「資料 9」

南極キングジョージ島でペンギンと戯れる



「資料 10」

お釈迦様生誕地・ルンビニの朝、牛車でお散歩する



「資料 11」

木陰の教室では、子供達の声が風に乗る



「資料 12」

グリーンランド・吹雪の中を走る犬ゾリ



「資料 1 3」

子は父の背中から人生の知恵を学ぶ



「資料 1 4」

彼らの心では、好奇心という名の腫が輝いている



「資料 1 5」

ヒンズー教徒・終末の在り方、死を待つ家



「資料 1 6」



子供たちは明日への希望を失わず  
年配者は昨日までの人生に満足する

## 物質的な充足感より、 心の安寧感を大切に

世界の山岳・辺境を旅すると、  
なにが幸せか、について  
考えざるを得ない。

「資料17」

## 2億5千年前からの、壮大な地球の物語



「資料19」

## 数百年という時間軸

### 世界の辺境での時間の流れ方

- ↓
- 幸せのあり方
  - 教え(教育)・伝えるあり方
  - 人生のあり方
  - 家族・家庭のあり方

「資料18」

## 人智を超える自然現象

- “おおいなるもの” との出会い体験
  - “包まれ感” “絶対的安心感” の体得
- 生きることへの喜びを体感できる

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓  
地球上のすべての“いのち”への感謝

「資料20」

## 彼らのまなざしの彼方にあるもの

数百年の時間軸の中で、ナニモノかに支えられ

「昨日まで」の「経験と知恵」を継承し、

「今日という日」の「生」を全うし、

「明日以降の未来」への「夢」を見ている。

「資料 2 1」

## 人を癒す場・里地里山の魅力を知る

ズンギ・ドウギョウ・講など互助組織

神楽など伝統芸能や歳時記の行事

古事記や出雲神話など古代の歴史

タタラ製鉄・炭焼き・杣などの地場産業

自然と共生しながら生きる『在来知』の宝庫

「資料 2 3」

## 日本人の忘れ物(心が癒されるもの)

- 季節感ある生活 ・ 旬を感じる食や歳時記
- 命の連続性 ・ 祖先や子孫への想像力
- 利他の意味 ・ 慈しみのあるまなざし
- 自然との距離感 ・ 他のいのちへの配慮
- 伝統的な美的生活観 ・ 節度や慎み深さ

「資料 2 2」



「資料 2 4」

## 人を癒す場のチカラとは

- 効率よりも、「情」や「絆」を優先する生活
- 大地からの恵みに、日々感謝する生活
- 他の命のリズムを、尊重し共生する生活

## ⇒ サステイナブルなSDGs的生活

- 今、求められているのは、
- 幸せの尺度 (質や量、深さや広さ)を
- 『はかり(測量)なおし、新たに設計する』こと

## 関係性の“場”から湧きいづる幸福感とは ～近未来へ向けたホリスティックライフの実験場～

清水 正弘 (山居ガイド、鍼灸師、日本ホリスティック医学協会広島事務局員)

### 文化遺産と環境保全を大切にす国

昨年は、プータンと日本の外交関係樹立30周年で、全国にて「プータン・しあわせに生きるためのヒント」と銘打った巡回プータン展が開催されました。私が初めてこの国を訪れたのは、1980年代後半。それ以来、地球の俯瞰的定点観測地の1つとして設定し、これまで10数回の渡航訪問をしています。

プータンはヒマラヤ南斜面に位置しており、北にチベット(中国)、東西及び南でインドと国境を接する陸封国です。日本のように国境が海に接することなく、北は「世界の屋根」ヒマラヤ山脈、南は「亜熱帯のジャングル」という自然の障壁に加護されています。国土は九州くらい程度の面積で、人口も日本の約200分の一程度の小さな王国です。30年前にわたりこの国の変化を見続けてきた者として言えることは、プータンは、「近未来へ向けたホリスティックライフ構築の壮大な実験場」ではないだろうか、ということなのです。

「日本人はミラクルである」、10数年前にこの国から来日したチベット仏教の僧侶が私に言った言葉です。広島に来た彼は、原爆投下直後の写真と、現在の街の景観を見比べながら頭を揺るがせていました。悠久の自然景観・ヒマラヤを背景に生活するプータンの人にとっては50年や60年くらいで、街の景観や物事の価値観は変わらないのでしょうか。当時のプータンの首都ティンブー近郊でも、庶民の家にはテレビなどなく、バザールでの会話や祭りの時などが貴重な情報交換の場でもありました。現在でも、物質的な情報交換の場でもありませんが、学生や公務員は日本化が徐々に浸透していき、学生生活や勤務の着物によく似た民族衣装を着て、学校生活や勤務

時間内の仕事をしています。寺子屋のような教室では、伝統的な文化や価値観がゆっくりとしたリズムの中で、次世代に受け継がれている光景を目にします。

先代の玉・ジダメ・ワアンチュック前国王が掲げた、国民総幸福(GNH)という、近代化への速度を抑えた開発施策理念は、第9次5か年計画(2002～2007年)を経て、2008年に発布された成文憲法下でその方針が明文化されました。その柱は4つ(①経済発展、②文化的遺産の保全と振興、③環境の保全と適切な活用、④よい統治)。この4つの柱の中でも、最も大切な基軸とされているのが、②と③なのです。

簡潔に言えば、「山川草木・萬物万象を含む“風土”との共生の上に、先人らが築いてきた伝統的価値観」の基軸を忘れることなく、それぞれ時代に対応させていくために、政治・経済という外的システムを整備していく、ということでしょう。その成文化された憲法を縦軸とし、輪廻転生というチベット仏教の時空を横軸とする、世界で唯一無二の「幸せの座標軸」を設定している実験国家、それがプータンではないかと思うのです。



プータンの遊学路



修行僧・半出僧を学ぶ修持法

### どんな時に幸せを感じるか？

プータンでは様々なものが「回旋」します。お祈りの際に題すマニ車、お祭り時に鹿の面などを被る仮面舞踏、仏塔や聖地巡礼での左廻り歩き、そして善悪所業の輪廻という概念……。何ごとも直線的・二元的な動きでなく、螺旋型のリズムが精神の深層部分にあるといえるかもしれません。また、プータンでの伝統的着物は、見事なまでの染織デザインが施されています。その手織りの現場に立ち会おうと、プータンの人たちの、死生観や宇宙観、幸福観といった目には見えないものが、魂の文様として織物の中に紡ぎ込まれていくかのようです。伝統的価値観というものは、口頭や文書で伝わる一方、生活のなげない営み風景の中に螺旋のリズムで織り込まれていくようにも思えます。

昨年日本を巡回したプータン歴では、プータンの映像も多種会場内にて流されていました。その中で1つの映像に心が留まりました。それは、プータン語(ゾンカ語)で「セムガエ(心が晴れ晴れとする)」ということについてでした。映像の中でプータンの庶民の人たちに、「どんな時にセムガエを感じますか?」との質問に、「織物をしている時」「娘の顔を見ている時」「親の手伝いをしている時」「バザールで各と話す時」「久しぶりに友と会う時」、そして「全ての生き物の安寧を祈る時」などの答えが返ってきていました。すなわち、「関係性のなかで、生きていく手応えを感じる時」に、セムガエを覚えていくのだと感じました。

誰ひとりとして、個人の所有欲のために、何かを求めている時ではないのです。物欲などの我欲の達成



長寿松仏画

時ではなく、関係性の“場”の中にこそ幸福の源泉があることをプータンの庶民は知っているのでしょうか。そして、その関係性の“場”とは、なにも現世上の人間関係だけではないのです。輪廻転生という生する時空により結ばれる、過去・現在・未来という生命連鎖の“場”も含まれているのでしよう。さらに、その“場”は、人間という世界に終始することなく、生き物を含め森羅万象との関係性ともつながっているのだと思います。

そのことは、成文化された憲法の中に、「国土の60%以上を森林で保全せねばならない」という一節が存在することで証明されています。その自然との共生に基軸をおいた伝統的価値観は、長寿を描いたチベット仏画(タンカ)にシンボライズされてもいます。この長寿絵は、WWFとプータン王立自然保護協会(BSNP)が発行した環境教育のテキスト冊子の表紙にもなっています。

これらの長寿絵には、生命が長く続くことを祈願し、鳥、鹿、木、岩、水、老人の6つの必須アイテムが描かれています。自由を祝福し不死である鳥はヒマラヤを渡るオグロツル、鹿は平和と調和を現し、木は成長と繁栄、岩は不動の象徴です。老人を長寿のシンボルとし、水が生物界の生命の源であることを示し、その循環に関わる人のあり方を教えています。

森羅万象との共生の中で、「手ごたえのある至福感」を体得しながら安寧の長寿人生を送る……。この壮大稀有な「ホリスティックライフ構築」への実験を取り組んでいる、プータンの開発理念と理想像は、すでに中世に描かれた長寿絵の中に盛り込まれているのです。



## 技術士（建設部門）試験 合格体験記

株式会社 荒谷建設コンサルタント 寺岡 康一郎

### 1. これまでの試験結果

私は、令和3年度技術士二次試験に合格することが出来ました。受験は5回目であり、始めの2年は択一問題で不合格、4回目の令和2年度試験で初めてA評価をいただきました。記述内容は自分としては、あまりうまく論述できていないように感じていましたが、A評価をいただいたことで、表現の方向性はそこまで間違っていなかったのだと自信がつかしました。

### 2. 令和3年度二次試験について

令和3年度の試験では、問題Ⅰについては、かなり一般的な知識しか記述できなかつたため、試験後はあまり手ごたえがありませんでした。問題Ⅱは直近の業務で行った内容が出題されました。業務において、苦労しながらも原理や内容を調べたり、問題点等を整理したりしていったので、今思えば、技術士試験の勉強を、業務を通して行っていたように感じました。問題Ⅲについては、大学の研究で専攻していた内容が出題されました。もともと興味があった内容でもあったため、その時の知識を織り込みながら問題点を抽出していきました。試験後には、これまで受けてきた試験と比べ選択科目がある程度記述できたと思う反面、必須科目が今一つという評価でした。そのため、合格した時は少し驚きました。

記述試験合格後に、社内で実施された模擬面接で試験の対策を行いました。はじめは、なかなかうまくしゃべれませんでした。回数を重ねていくうちに、徐々に質問にしっかりと答えられるように感じました。本番では、少し詰まっても、自分が言いたいことをしっかり話すことを心掛けて臨みました。

### 3. 技術士合格後の思い

技術士合格後に思ったことは、業務の中で覚えたことや勉強したことは無駄にはならないと感じたことです。業務が立て込んだこともあり、技術士の試験勉強の時間が例年よりも余り多く取れませんでした。その中でも合格できたのは、運もありますが、日々の積み重ねで知識を深めた結果だと感じました。技術士合格はゴールではなく、ここからスタートという気持ちで、これからも研鑽に励みたいと思います。



## 技術士(電気電子部門-電気設備)試験 合格体験記

中電技術コンサルタント 株式会社 兵 頭 篤

### 1. はじめに

私は、令和3年度の技術士二次試験に合格することができました。3度目の受験であり、これまでを振り返ると、初年度(R1)は筆記試験を突破するも口頭試験で不合格。2回目(R2)は、口頭試験まで到達せず、3回目(R3)の正直で口頭試験を乗り越えられました。

本稿では、私の技術士二次試験(筆記・口頭試験)合格までの道のりを記します。

### 2. 試験突破まで

初めての受験では、右も左も分からずただひたすら過去の解答事例を丸暗記していました。口頭試験では、会社にサポートいただき、社内の有資格者に模擬面接を行っていただきました。この対策の際に、『技術士とはなんぞや?』と、ここで初めて技術士の役割(使命)を理解しました。(後の筆記試験では、この理解が回答に活かせたと感じています。)しかし、令和元年度から口頭試験の内容がコンピテンシーを問う試験に大きく変わり、十分に理解できないまま試験に臨んだ結果、不合格でした。

3度目の試験では、これまでの知識の蓄積もあり少し余裕をもって筆記試験に臨むことができました。また、この年には、新事業創出と若手技術者育成を目的とした新組織『イノベーションプロジェクト(以下、イノピー)』が創設され、現在所属の電気本部 電気通信部との兼務を命ぜられました。イノピーでは、定例会等を通じ広い知見の習得や人脈形成を図ることができ、当社に入社して以降人との関わりが最も急増した年でした。

口頭試験対策としては、イノピーに携わる方々も含め部門問わず社内外の先輩技術士に面接指導を仰ぎ、夢を見るほど体に染み込ませました。その甲斐あって、なんとか雪辱を果たすことができました。

### 3. おわりに

技術士試験の合格にあたっては、まずは家族の理解、そして会社のサポート等、人と人との関わりがとても大切であると感じた資格試験でした。日頃からのご支援ご指導、改めて感謝申し上げます。

入社当初は、恥ずかしながら技術士という資格さえ知らなかったですが、今では業務に携わる上での通過点と認識しており、次の目標に向けて今後も精進していきたいと思っております。



## RCCM試験合格体験記

株式会社 荒谷建設コンサルタント 白山 正太

### 1. はじめに

私は、令和3年度のRCCM資格試験に合格することができました。RCCM資格試験は一定の実務経験が必要ですが、令和3年度に要件を満たすことができたため、初受験を行いました。初めての受験ということで試験対策は手探りでしたが、皆様の参考になれば幸いです。

### 2. 試験対策について

問題Ⅰ（経験論文）は、実務実績証明書に記載した担当業務の内、1件選択し、業務内容・役割・問題点と対応等を回答します。私は回答例を自らの業務に落とし込んだ上で回答を作成し、添削を3回程度受けました。

問題Ⅱ、Ⅳ（択一式）は、大半が過去問と類似した問題が出題されます。私は対策として、過去問の苦手な範囲を重点的に繰り返し取り組んだ他、国土交通白書を参考程度に一読しました。

問題Ⅲ（記述問題）は、試験までに6つの出題テーマが公表され、試験はその中から1題出題されます。私はテーマごとに指定されたキーワードを基に骨子を考えた上で回答を作成し、テーマごとに1～3回程度添削を受けました。試験に臨む際は、6つのテーマの回答を細部まで記憶することは難しいため、各テーマのキーワードを含めた骨子を記憶しておく方が良いかと思います。

その他として試験対策とは少し外れますが、令和3年度よりPCを使用したCBT試験となりました。回答はキーボードで入力出来るため、スムーズに試験を進めることができる反面、誤字脱字が手書きと比べて多い上に気付きにくいです。特に専門用語は試験用PCでは1回で変換できないことが多々ありました。普段自分のPCに専門用語を単語登録している場合は、試験の際に誤字が多発するため、見直しはいつも以上に行った方が良いと考えます。

### 3. 最後に

RCCM資格試験合格への最大のハードルは、試験対策期間中のモチベーション維持と考えております。私はモチベーションの維持のためにメリハリが大事と考えたため、一週間の内に勉強する時間を決めて、その時間だけは集中して試験勉強に取り組み、それ以外の時間は気が向いたら勉強する程度に留めました。メリハリをつけることで、集中する時間に効率よく勉強することができ、合格に繋がったのではないかと考えております。

最後になりますが、今回RCCM資格試験受験に際してご協力いただいた上司・同僚をはじめとする方々に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。



## コンクリート診断士試験合格体験記

ダイホーコンサルタント 株式会社 和田 満 博

### 1. はじめに

私は、令和4年度のコンクリート診断士試験に合格することができました。受験は3回目であり、あきらめずに合格できて「やっと合格できた」という思いです。

### 2. 受験までの取り組み

私がコンクリート診断士を志したきっかけは、RCCM（鋼構造及びコンクリート）に合格して橋梁点検の管理技術者をするようになり、橋梁点検の診断についての知識を得たいと思ったからです。

今から過去の受験を振り返ってみると、1回目の試験は早くから択一試験の勉強を始めて準備しましたが、記述試験の過去問の論文作成で手間取り時間が無くなってしまいました。直前でもう一度択一試験を勉強して受験に臨みましたが、択一試験では簡単な問題でも間違いを繰り返し（勉強したことを忘れている）、記述試験は「一応文章を埋めた」という感じでした。

2回目の試験は、参考書から記述試験の論文を5年分ぐらい作り、直前で択一問題と論文をキーワードで記憶することに重点を置きました。不合格でしたが択一問題は「80点」ぐらいの得点を得ました。論文もある程度埋めれましたが、まだまだなんだと実感しました。

3回目の試験は、過去問論文例を参考に改良を加え、評価される論文と9割以上論文を埋めることに意識して過去問10年分ぐらいの論文を作りました。それで、やっと合格できたわけです。

### 3. 受験対策として言えること

私は3回の受験でやっと合格しましたが、今から受験する人に受験対策として取り組むべきことを記したいと思います。まず、記述式試験の論文を「過去問論文例」を参考に作ってみることで。論文を作るうえで注意することは、9割以上埋める、技術的な内容しか文章にしないことです。また、出題頻度が高い順番で作る（塩害、ASR）ことが重要です。私が受験した3年間も塩害関連しかでませんでした。次に、択一問題は5年分の過去問で準備すれば十分合格できます。

### 4. おわりに

コンクリート診断士の試験は合格率15%ほどで、簡単な試験ではないと思います。半年ぐらい前から準備して余裕をもって取り組むのがよいと思います。私にとってコンクリート診断士の資格取得は、業務に携わる通過点だと思っています。今後も継続研鑽して精進していきたいと思っています。最後に、あきらめなければ試験に合格する。





## 自分と会社・趣味について

株式会社 タマルコンサルタント

代表取締役 田 丸 哲 志

この度、広報誌の発行にあたり事務局から投稿記事のお話をいただきどのようなことを書こうかと考えましたが、私を知らない方もいらっしゃるのでは、簡単に自分と会社・趣味について書いてみようと思います。

さて、私は県北の三次市で生まれ育ちました。私が幼少期の昭和 62 年に弊社は設立しました。幼い頃の記憶ではありますが、当初は実家の一部屋で両親が仕事をしているのを見た記憶があります。私は小・中・高校と地元の学校に通っていました。中学校に上がった時から両親の会社にも行くようになり、その時初めて測量に触れました。最初は右も左もわからないまま手伝いをしたのを覚えています。その時からでしょうか自分がやりたい仕事は何なのか考えました。高校に上がった時は、地籍測量にも従事しました。広島県と島根県との県境の中国山地の地籍測量だったと思います。その時は自分なりに体力には自信がありましたが、社員たちについていくのがやっとで、なにもできなかった事を今でも覚えています。高校卒業間際になり進路を考えたときに、弊社が今あるのも地域や関係団体等の多くの方々のご支援やご協力に支えられていると感じ、将来微力ながら地域社会の発展に少しでも貢献したいと思い、両親の会社を継ぐことを決心し、福岡の大学に進学しました。大学在学中にはあまり帰省できなく会社はどうなっているのか気にはなりましたが、まず自分ができることをしようと勉学に励みました。大学卒業後は、弊社には就職せず、弊社や地域の発展のためには、狭い視野ではなく広い視野を持つために、福岡に本社があるボーリング会社に就職しました。その後 2012 年（平成 24 年）に弊社に入社しました。当初は測量調査課に配属になり、地籍測量・公共測量等に従事しました。その後 2015 年（平成 27 年）に設計課に配属になり、地質調査・公園設計等を主に従事しました。2022 年（令和 4 年）に代表取締役に就任いたしました。

さて話が変わって私の趣味の話です。私は今まで小学校では、剣道・野球をしてきました。自分は飽き性なので剣道は 2 か月・野球は 2 年間しかしませんでした。中学校では、卓球・サッカーをしてきました。ここでも飽き性は治らず、卓球は 2 年間・サッカー 2 年間しかし

ませんでした。高校になるとバレーボール部に入部しました。バレーには才能があったと思います。1年目からリベロという守備的ポジションを任せられ、1・2年生とも地区の選抜に選ばれました。しかし、ここでも飽き性は治らず高校3年間でバレーボールはやめてしまいました。

こんな飽き性自分でも、今現在でも継続している趣味はゴルフです。ゴルフは小学校の5年生の時から始めました。始めたきっかけは父親が練習するときについていき遊び感覚で始めたのがきっかけでした。それからは練習を重ねるうちに、少しずつですが上達してきました。そんな折に、小学校6年生の時に初めて大会に出場しました、(確か広島カンツリー倶楽部西条コースだったと思います。) 散々な結果に終わってしまって挫折したのを覚えています。今でも、週1回練習場に行き2～3時間は練習をしています。今現在の目標はスコア80を切ることです。(最終目標はスコア72) ゴルフをしていると自然に囲まれた環境が常日頃のストレス社会から解放してくれます。また、普段あまり親しくない人とも一気に親しくなれるのもゴルフの良いところだと思います。是非皆さんも始めてみませんか？

最後になりましたが、弊社は昭和62年に創業し平成29年で30周年を迎えました。業界の皆様方のおかげで、ここまで続けることができている事に感謝いたします。今後40年50年と迎えらるるよう職員一同頑張っていこうと思います。

貴重なお時間を割き、最後までご高覧いただきまして、有難うございました。





## 生涯学習のススメ

株式会社 ミネ技術

松 並 恭 子

私は社会人になってからずっと、何かしらの習い事をしています。着付け、お煎茶、英会話、生け花。その時々に関心があるものを習ってきました。

この習い事は学校での学習とは違い、生涯にわたって自分の人生を充実させるために自分で自由に選択して学ぶ「生涯学習」です。勉強・スポーツ・文化活動などあらゆるものを通じて学びと共に人とのつながり、生活や心の豊かさを得るものです。

私が生涯学習を始めたきっかけは、母に「浴衣くらい自分で着られるように習ってみたら？」と言われた事です。この母の言葉が無かったら、今の人生の充実感は半減していたかもしれません。

出産・育児期には無理をせずにお休みしたりしながら、今は生け花を続けています。独身時代とは違って時間に制限はありますが、家族の協力もあって休みの日に自分の時間を作って楽しむ事ができるのは幸せなことだと感じています。

生涯学習の魅力は、なんと言っても幅広い年齢層の共通の趣味を持った人との関わりです。私が習っている生け花は、小学校低学年から80代の男女が習っていて、本当に幅広い年齢層の人と関わるすることができます。私たちが先生から教わるだけでなく、子供たちに教える事もありますし、逆に子供が生けた花を見て発想の柔軟性を学ぶこともあります。

花の事だけでなく、様々な職業や地位の人達と係わる事で自分の見聞を広げる事もできるし、人生の苦楽を学ぶこともでき、気心の知れた仲間も沢山できました。

年に一度、地域の生涯学習の発表会があるのですが、この発表会が見ていてとても楽しいのです。高齢の方たちが色とりどりのドレスにメイクを施して舞台上で踊り、琴や三味線の演奏、唄や体操など本当にはつらつとした姿で発表されます。子供たちの可愛い踊りあり、高齢の方たちの元気な姿あり、写真や絵画や手芸など沢山の作品が展示され、一年間の成果が集結するイベントです。

この三年間はコロナ禍で発表会が中止となっていたため、今年度こそはと各教室で

張り切っておられるようなので、開催されれば力の入った作品が並ぶのではないかと期待しています。

ある男性との話で、定年退職後にやる事もなく一日家でテレビを見てゴロゴロしていると、奥さんとの喧嘩が増えて家に居場所が無くなってしまったそうです。暇を持て余して行ってみた竹細工教室で自分より年配の方達が素晴らしい作品を作っている姿を見て刺激を受け、自分も頑張って技を習得したいという気持ちになり、家庭より外の世界に目が向く事で家庭内での喧嘩も無くなったそうです。

会社と家庭だけではなく、他に居場所と仲間を作ることが出来る生涯学習は、仕事人間にこそ必要なことかも知れません。人生100年時代、自分の人生に彩りを与える「生涯学習」を始めてみてはいかがでしょうか？



## サラメシ

中国開発調査 株式会社

常務取締役 宮村 孝司

現在の業種に就職する前、某ゼネコンに勤務していた。  
その当時、よく、駅の立ち食いそばを食べていた。  
東京のそばのだしはしょうゆ味で下関育ちの自分には合わず、生卵を入れて流し込んでいた。

ゼネコンで働いていた当時、技術畑の内勤で主に、設計施工一括方式の仕事に従事していた。設計段階は客先へ、施工が始まると現場へ、時には、客先から現場、また、客先と昼間はほとんど外出で、夕方帰社後、内業していた。

昼時は、ほぼ移動時間、腰を据えてメシを食すことはなかった。



写真：新下関駅の立ち食いうどん屋にて食すふく天うどん

結婚したときは、かみさんの手弁当を食べていた時もあったが、そのうちゆっくり食すことが出来ず、持ち帰ることが度々あり、かみさんから見捨てられた。

そんなこともあって、駅の立ち食いそばが自分にとってのサラメシとなった。

晩年、家の事情で広島に再就職をした。単身赴任である。

通勤は、新下関から通っている。いまでも、通勤時には、新下関駅の立ち食いうどん屋でメシを食べる。

小腹がすいた時、普段は340円の天かすだけのうどんを食べてる。

しかし、いいことや嫌なことがあった時、660円のふく天うどんを食べる。麺は柔らかい細麺で、いりこ昆布の薄味のだし、そこに、ふぐの天ぷらと分葱とかまぼこ1切れが載せてあるだけのシンプルなうどん。

ゼネコン時代は、味が合わず、ただ流し込んでいただけの麺だが、今は、生まれ故郷の味の麺だけに味わって食している。

頑張った時の自分への褒美のこの一杯、少し落ち込んで食欲がないときのこの一杯、自分にとって、元気を取り戻せる瞬間です。

### 令和4年度 青年部会の活動と今後の課題について

(株)荒谷建設コンサルタント 代表取締役  
(一社)広島県測量設計業協会 青年部会 幹事長  
荒谷 悦嗣

青年部会は本年で発足から4年目、前身である「担い手確保対策推進プロジェクトチーム」から数えると5年目を迎えました。「創造の歩を進めよう」という基本理念を掲げた泉田義博部会長（株）イズタコンサルタント）体制も2年目に入り、コロナ禍の影響で思うような活動ができなかった令和3年度から状況が変わり、本年度は徐々にではありますが、例年通りの活動を取り戻すことができました。

#### 1. 令和4年度の活動について

令和4年12月までの主だった活動としては、高校・高専・専門学校・大学において測量設計業の担い手確保プレゼンテーションを担当しました。6月28日に県立広島工業高等学校（プレゼン担当：泉田義博氏（イズタコンサルタント））、7月6日に呉工業高等専門学校（プレゼン担当：佐々木嘉晃氏（陸地コンサルタント））、7月13日に庄原実業高等学校（プレゼン担当：土肥広大氏（セトウチ））、7月25日に広島工業大学工学部（プレゼン担当：日野原健三氏（日野原富士コンサルタント））、12月7日に広島工業大学専門学校（プレゼン担当：中川孝浩氏（荒谷建設コンサルタント））で、それぞれ開催されました。年明けの1月26日には、県内の高校生が集まった場での企業PRイベント「建設企業ガイダンス」が県立広島産業会館にて3年ぶりに開催されます。

また、10月15日には、子供向け建設業体験イベントである「ひろしま建設フェア」も、マリーナホップにて3年ぶりに開催されました。こちらについては、広島県測協ブース運営を青年部会が担当し、割り箸を使った橋梁設計体験である「ダ・ヴィンチの橋」、橋梁点検車の展示と搭乗体験、地中探査機体験、UAVシミュレータ体験の4本立てで出展いたしました。コロナ禍前と遜色ない人出もあり大変盛況に終えることができました。



建設フェア 1



建設フェア 2

そして、本年度の最も特徴的な活動としては「担い手確保動画作成」プロジェクトがありました。他県の県測協の多くが、担い手確保を目的とした若者向けの動画を作成している中、広島県測協としても学生や若手に見てもらえる独自コンテンツ製作に取りかかることになり、青年部会が担当することとなりました。動画作成に関しては、テレビ新広島の制作会社であるTSSプロダクションに委託をしましたが、青年部会メンバーが動画の構成を練ったり撮影に立ち会ったり、更にはオリジナルソングの歌詞のアイデア出しまで行いました。ご御多忙の中、撮影に協力いただいた会員企業様に改めて御礼申し上げます。オリジナルソングを含め、映像の権利は広島県測協が保有しておりますので、動画を編集したり歌だけ使ったりすることも可能です。ぜひご御活用いただければ幸いです。



動画撮影の様子

## 2. 今後の課題について

平成30年度に発足した「担い手確保対策推進PT」を母体として、元号が令和に変わるタイミングで発足した青年部会ですが、業界の担い手確保を推進するはずの青年部会自体の担い手確保が切実な課題となっています。発足当初は50歳定年としておりましたが、発足から4年経った現在、新会員が増えないにもかかわらず青年部会の役員を担ったメンバーの多くが50歳を超えてしまうという事態に直面し、本年度の定時総会にて「所属企業に後継候補者がいなければ50歳半ばを目処に在籍できる」という、実質的な定年延長の規程改正を行いました。この曖昧な定年は、中国地区協議会に発足した「次世代の会」の年齢制限事項に倣ったものでもあります。しかしながら、この規程改正によるメンバー確保も一時的な対応に過ぎず、数年後にまた同じ問題が発生します。担い手確保を進めていくには、若い世代の知恵と行動力が不可欠です。また若手同士での有意義な情報交換とネットワーク作りの

場にもなりますので、会員企業の皆様におかれましては、次世代を担う後継候補者もしくは有望な若手従業員を是非とも青年部会にご紹介いただきますようお願い申し上げます。

もう一つ、広島県測協における青年部会の位置づけについて、今一度ご検討いただきたいと考えています。定時総会や役員会の段取り、連絡調整などは幹事長4年目となる荒谷が個人で担って参りましたが、荒谷の力不足で行き届かない点が多々出て参りました。また、年会費3,000円（コロナ禍以降は徴収せず）では思ったような活動ができず、学校への業界説明会運営のために遠路から足を運んでも交通費も出すことができず（青年部会の中心メンバーは、県東部および県北部が多い）、会場費などは県測協本会の予算に頼らざるを得なくなっています。青年部会のモデルの一つでもあった（一社）広島県建設工業協会の青年団体「広島建設青年交流会」は、建設業保証会社などの大口スポンサーが付いて余裕のある運営を行っていますが、広島県測協の青年部会では残念ながら望めそうもありません。青年部会は独立した任意団体の形でスタートしましたが、実質は総務広報委員会からの委託で事業や活動を進めていること、また昨年度から中国地区協議会に若手の会である「次世代の会」が設置されたことを受けて、広島県測協として青年部会の枠組みを維持していくためにも、改めて県測協本会に組み込んでいただくことを検討いただければと考えます。



## 総 会

### 第46回通常総会

開催日：令和4年4月25日（月）

会 場：ひろしま国際ホテル

議決事項

- 1 第1号議案 令和3年度 正味財産増減  
計算書及び貸借対照表の承認について
- 2 第2号議案 役員を選任について

報告事項

- 1 令和3年度 事業報告について
- 2 令和4年度 事業基本方針・実施計画及  
び収支予算について



## 令和3年度 理事会 (令和4年1月～令和4年3月)

### 第5回理事会

開催日：令和4年3月25日（金）

会 場：広島県建設業協会連合会 会議室

議 題

- 1 令和3年度 事業実績及び決算見込について
  - (1) 総務広報委員会
  - (2) 技術委員会

- (3) 経営委員会
- 2 令和4年度 事業基本方針・実施計画及び予算について
  - (1) 総務広報委員会
  - (2) 技術委員会
  - (3) 経営委員会
- 3 令和3年度 決算見込について
  - (1) 正味財産増減計算書(見込み)(案)
  - (2) 貸借対照表(案)
  - (3) 財産目録(案)
  - (4) 財務諸表の注記(案)
- 4 令和3年度 予算の流用について
- 5 令和4年度 予算について  
令和4年度 収支予算書(案)
- 6 その他
  - (1) 第46回通常総会の運営について
  - (2) 令和4年度 第1回各委員会及び第3回理事会の日程調整について
  - (3) 全測連会長表彰候補者等の推薦について

## 令和4年度 理事会 (令和4年4月～令和4年12月)

## 第1回理事会【決算理事会】

開催日：令和4年4月25日（月）

会 場：ひろしま国際ホテル

議 題

- 1 令和3年度 事業実績及び決算について
- 2 令和4年度 事業基本方針・実施計画及び予算について
- 3 その他
  - (1) 第46回通常総会の運営について
  - (2) Web(オンライン形式による)講習会の試行について
  - (3) 令和4年度 事業実施スケジュールについて

## 第2回理事会

開催日：令和4年4月25日（月）

会 場：ひろしま国際ホテル

議 題

- 1 会長、副会長及び専務理事の選定について
- 2 第3回理事会の開催日程について

## 第3回理事会

開催日：令和4年5月16日（月）

会 場：広島県建設業協会連合会 会議室

議 題

- 1 委員会の構成について
- 2 令和4年度 担当事業の基本方針・実施計画及び予算について
  - (1) 総務広報委員会
  - (2) 技術委員会
  - (3) 経営委員会

## 第4回理事会

開催日：令和4年9月22日（木）

会 場：広島県建設業協会連合会 会議室

議 題

- 1 令和4年度 担当事業の実施計画・状況及び予算について
  - (1) 総務広報委員会
  - (2) 技術委員会
  - (3) 経営委員会

## 2 正会員の入会について

### 第5回理事会

開催日：令和4年12月16日（金）

会 場：広島県建設業協会連合会 会議室

議 題

#### 1 令和4年度 担当の実施計画・状況について

(1) 総務広報委員会

(2) 技術委員会

(3) 経営委員会

#### 2 第47回通常総会の開催日程等について

## 令和3年度 委員会 (令和4年1月～令和4年3月)

## I 総務広報委員会

## 第2回総務広報委員会

開催日：令和4年3月11日(金)

会場：広島県建設業協会連合会 会議室

## 議題

- 1 令和3年度 事業実績及び決算見込について
  - (1) 令和3年度 担当事業の事業実績
  - (2) 令和3年度 担当事業の決算見込
- 2 令和4年度 事業基本方針・実施計画及び予算について
  - (1) 令和4年度 担当事業の基本方針・実施計画(案)
  - (2) 令和4年度 担当事業の予算(案)
- 3 その他

## II 広報誌編集会議

## 第2回広報誌編集会議(Web会議)

開催日：令和4年1月21日(金)

会場：Zoomでの開催

## 議題

- 1 広報誌の編集について  
広報誌(案)
- 2 その他

## III 技術委員会

## 第2回技術委員会

開催日：令和4年2月25日(金)

会場：広島県建設業協会連合会 会議室

## 議題

- 1 令和3年度 事業実績及び決算見込について
  - (1) 令和3年度 担当事業の事業実績
  - (2) 令和3年度 担当事業の決算見込
- 2 令和4年度 事業基本方針・実施計画及び予算について
  - (1) 令和4年度 担当事業の基本方針・実施計画(案)
  - (2) 令和4年度 担当事業の予算(案)
- 3 その他

## IV 経営委員会

### 第3回経営委員会

開催日：令和4年3月4日(金)

会 場：広島県建設業協会連合会 会議室

#### 議 題

- 1 令和3年度 事業実績及び決算見込について
  - (1) 令和3年度 担当事業の事業実績
  - (2) 令和3年度 担当事業の決算見込
- 2 令和4年度 事業基本方針・実施計画及び予算について
  - (1) 令和4年度 担当事業の基本方針・実施計画(案)
  - (2) 令和4年度 担当事業の予算(案)
- 3 その他

## V 役員候補者選出委員会

開催日：令和4年3月25日(金)

会 場：広島県建設業協会連合会 会議室

#### 開 票

- 1 投票状況等について
- 2 開票作業について
- 3 開票

## 令和4年度 委員会 (令和4年4月～令和4年12月)

### I 総務広報委員会

#### 第1回総務広報委員会

開催日：令和4年5月19日(木)

会 場：広島県建設業協会連合会 会議室

#### 議 題

- 1 令和4年度 担当事業の基本方針・実施計画及び予算
- 2 業界等PR動画の作成について

### II 広報誌編集会議

#### 第1回広報誌編集会議

開催日：令和4年11月8日(火)

会 場：広島県建設業協会連合会 会議室

#### 議 題

- 1 広報誌の編集について
- 2 その他

Ⅲ 総務委員会担当事業

1 学校説明会

- (1) 広島県立広島工業高等学校  
 開催日：令和4年6月28日（火）  
 共 催：広島県土木建築局建設産業課  
 （一社）広島県測量設計業協会  
 広島建設青年交流会  
 対 象：土木科3年生



- (2) 広島県立西条農業高等学校

中止

- (3) 呉工業高等専門学校  
 開催日：令和4年7月6日（水）  
 共 催：広島県土木建築局建設産業課  
 （一社）広島県測量設計業協会  
 広島建設青年交流会  
 対 象：環境都市工学科2年生



- (4) 広島県立庄原実業高等学校  
 開催日：令和4年7月13日（水）  
 共 催：広島県土木建築局建設産業課  
 （一社）広島県測量設計業協会  
 広島建設青年交流会  
 対 象：環境工学科3年生



- (5) 広島工業大学 工学部  
 開催日：令和4年7月25日（月）  
 共 催：（一社）広島県測量設計業協会  
 対 象：環境土木工学科1・2年生合同



- (6) 広島工業大学専門学校  
開催日：令和4年12月7日（水）  
共 催：広島県土木建築局建設産業課  
（一社）広島県測量設計業協会  
広島建設青年交流会  
対 象：土木工学科1年生



(7) 広島県立府中東高等学校 中止

(8) 広島県立宮島工業高等学校 中止

(9) 福山工業高等学校 中止

2 広島工業大学（環境学部・工学部）インターンシップ募集 中止

3 地図ならびに地理作品展

開催日：令和4年9月10日（土）～ 9月24日（土）

会 場：5-D a y s こども文化科学館

会長表彰：小学校・中学校・高等学校 各1名

4 女子学生と女性技術者との交流会 中止

5 ひろしま建設フェア2022

開催日：令和4年10月15日（土）

会 場：広島マリーナホップ

主 催：広島県，（一社）広島県建設工業協会，広島県建設業協会連合会  
建設産業専門団体中国地区連合会，（一社）広島県測量設計業協会

出 展：子供が楽しめるような展示・体験型ブース等

来場者数：約9,500人





6 ボウリング大会

開催日：令和4年10月22日（土）  
 会場：広島パークレーン  
 参加チーム：16チーム



7 優良職員 会長表彰

表彰式：令和4年12月5日（月）  
 会場：ひろしま国際ホテル  
 被表彰者： ケイ・エム調査設計株式会社 岡田 茂 様  
 (3名2社) (株)ミネ技術 松本宏一 様  
 (株)ミネ技術 行廣泰昌 様



IV 技術委員会

第1回技術委員会

開催日：令和4年5月26日（木）  
 会場：広島県建設業協会連合会 会議室  
 議題

- 1 令和4年度 担当事業の基本方針・実施計画及び予算
- 2 Web（オンライン形式による）講習会の試行について

V 技術委員会担当事業

1 技術士第二次受験対策講習会（CPD対応）

開催日：令和4年4月8日（金）  
 会場：広島県立総合体育館  
 講師：矢木 一 光 様  
 参加者：4名3社



2 コンクリート診断士受験対策講習会  
 （CPD対応）

開催日：令和4年4月14日（木）  
 会場：広島県立総合体育館  
 講師：広島県コンクリート診断士会  
 参加者：2名2社



### 3 R C C M受験対策講習会(C P D対応)

開催日：令和4年5月18日(水)

会 場：広島県立総合体育館

講 師：山下 祐 一 様

参加者：8名4社



### 4 災害復旧実務講座(コンサルタント編)

(C P D対応) (W e b同時開催)

開催日：令和4年6月7日(火)

会 場：広島県立総合体育館

講 師：国土交通省中国地方整備局，広島県

参加者：29名14社(会場受講)

69名16社(W e b受講)



### 5 第1回賛助会員による技術向上講習会

(C P D対応)

開催日：令和4年7月20日(水)

会 場：広島県立総合体育館

講 師：(株)ジツタ中国

前田工織(株)広島支店

(株)マシノ

丸栄コンクリート工業(株)

参加者：45名16社



### 6 R C C M受験対策直前講習会

開催日：令和4年8月1日(月)

会 場：広島県立総合体育館

講 師：山下 祐 一 様

参加者：4名2社



7 CIM(3次元CAD)体験講習会

(CPD対応)

開催日：令和4年8月2日(火)

会場：広島県立総合体育館

講師：川田テクノシステム(株)

参加者：29名13社



8 第2回賛助会員による技術向上講習会

(CPD対応)

開催日：令和4年9月2日(金)

会場：広島県立総合体育館

講師：共和コンクリート工業(株)中国四国支店

(株)山陽測器

(株)トリンプルパートナーズ中国

ランドス(株)中国西支店

参加者：27名9社



9 全測連中国地区協議会関係

(1) DX・i-C onセミナー2022

(CPD対応)

開催日：令和4年4月21日(木)

会場：広島県民文化センター

講師：国土交通省，中国地方整備局，静岡県外

参加者：273名

(会場受講：155名，Web受講：118名)



(2) 第25回中国地区測量技術講演会

(CPD対応)

開催日：令和4年6月27日(月)

会場：広島県民文化センター

講師：学識経験者，国土地理院，測量設計会社

測量機器会社

参加者：171名



### (3) 第9回土木設計関係技術発表会

(Web開催)

(CPD対応)

開催日：令和4年10月6日(木)

会場：Zoomによる開催

発表者：中国5県各県測協の会員

参加者：182名

### (4) 独禁法講習会(建設関連5団体共催)

開催日：令和4年10月13日(木)

会場：広島県民文化センター

中止

## VI 経営委員会

### 第1回 経営委員会

開催日：令和4年5月27日(金)

会場：広島県建設業協会連合会 会議室

議題

- 1 令和4年度 担当事業の基本方針・実施計画及び予算
- 2 経営者懇談会

### 第2回経営委員会

開催日：令和4年9月9日(金)

会場：広島県建設業協会連合会 会議室

議題

- 1 令和4年度 担当事業の実施計画・状況について
- 2 県(本庁、地方機関)との意見交換会について
- 3 国の5事務所長との意見交換会について
- 4 県内市町への要望について
- 5 経営者懇談会について

## VII 経営委員会担当事業

### 1 営業担当者会議

開催日：令和4年8月18日(木)

会場：広島県建設業協会連合会 会議室



2 広島県（本庁）との意見交換会  
 開催日：令和4年10月25日（火）  
 会 場：ひろしま国際ホテル  
 ※ 詳細は、62 ページに掲載。



3 国（5事務所）との意見交換会  
 開催日：令和4年11月30日（水）  
 会 場：ひろしま国際ホテル  
 ※ 詳細は、63 ページに掲載。



### 4 経営者懇談会

開催日：令和4年12月5日(月)

会場：ひろしま国際ホテル

講演

「人を癒す場のチカラとは」  
～世界の辺境・日本の里地里山からの学び～  
トラベルセラピスト・鍼灸師

清水正弘 様



### 5 広島県（事務所長）との意見交換会

開催日：令和4年12月16日（金）

会場：メルパルク広島

※ 詳細は、62 ページに掲載。



### 6 市町要望

(1) 大崎上島町（制度導入のお礼挨拶）

開催日：令和4年7月7日（木）

(2) 江田島市

開催日：令和4年7月19日（火）

# DEC 株式会社 土木技術コンサルタント

## 信頼され、選択される技術パートナー

時代と共に変化する社会の要請に対し、土木分野の計画・設計に専門特化した技術者が一体となり、総合力のある技術パートナーとしてお客様をサポートいたします。



弊社は、情報処理サービスなどを手掛けている(株)経営管理センターの中に土木設計専門の部署として設置された「事業開発部」を前身としております。 同部は名称を改めながらも弊社の設立までの18年間、土木技術者を中電技術コンサルタント(株)に派遣して幅広い技術と経験を蓄え、1997年(平成9年)4月に、株式の6割を役員・社員で保有する持ち株制度を導入し、分社・独立いたしました。

新しく設立した会社は、(株)土木技術コンサルタント(通称:デック)と名付けられ、土木の解析・計画・設計に特化した協力会社としてスタートいたしました。 建設不況下での船出は決して順風満帆というわけではございませんでしたが、幾多の厳しい局面も先人の努力の積み重ねや関係者の皆様方のご尽力によってどうにか乗り越え、2022年4月には設立25周年を迎えることができました。 これもひとえに皆様方の温かいご指導とご支援の賜物と深く感謝いたしております。

引き続き、弊社では経営理念である「お客様に喜ばれ、地域の発展に貢献し、社員・家族を幸せにする」のもと、コンプライアンス経営を最優先とし、「お客様に信頼され、選択される技術パートナー」としての役割を果たすべく、「働きやすさ」と「働きがい」を二本柱とした「働き方改革」を一步ずつ進めながら、広く顧客の要請に応える健全で力強い自立した企業を目指すよう社員が一丸となって努力してまいります。

また、広島県内の建設関連業の健全な育成発展、国土の開発保全及び地方産業の進展につきましては、微力ながら弊社も他の(一社)広島県測量設計業協会の会員の皆様と一緒に尽力させて頂く覚悟でございますので、何とぞよろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要		沿革	
商号	株式会社土木技術コンサルタント	1979年 4月	(株)経営管理センター内に事業開発部として発足
設立	平成9年4月1日	1997年 4月	(株)土木技術コンサルタントとして分社・独立
資本金	1,000万円	2007年12月	特定労働者派遣事業 届出
代表者	代表取締役社長 大崎 博之	2008年11月	建設コンサルタント登録
役員・社員数	31名(令和4年10月1日)	2009年 8月	測量業者登録
主な取引先	官公庁、建設コンサルタント、ゼネコン	2019年 1月	広島県奨学金返済支援制度導入企業データバンク登録
登録	建設コンサルタント登録 測量業者登録	2020年 2月	広島県働き方改革実践企業 認定
所在地	〒733-0011 広島市西区横川町2丁目7-19	2022年 9月	広島県仕事と家庭の両立支援企業 登録
URL	<a href="http://www.decnet.co.jp">http://www.decnet.co.jp</a>		

## 会員紹介

### 業務内容



- ① 河川計画（河川整備基本計画，氾濫解析，ダム管理，防災関連，事業評価，その他）
- ② 河川・砂防（河川設計，砂防計画・調査，砂防設計）
- ③ 土質基礎（地盤改良，鉄塔基礎，発・変電所基礎）
- ④ 港湾（港湾施設・海岸構造物の設計（軟弱地盤解析，補修・補強の設計を含む）
- ⑤ 道路（道路，交差点，道路構造物，道路防災）
- ⑥ 橋梁（上・下部工）
- ⑦ 下水道（公共下水，集落排水，雨水排水機場，下水処理場，浸水対策，耐震設計）
- ⑧ 地中化（電線共同溝設計，地中送配電線路設計，各種施設の設計計算）
- ⑨ 施工計画（仮設構造物設計，施工機械選定，工事中の切回し，工程計画，機器搬入計画）

### アクセス

事務所は JR 横川駅から徒歩 2 分の場所にある横川メディカルプラザの 7F にあります。  
エントランスは 2019 年 12 月，オフィスの拡張に伴ってリニューアルしました。



〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 7-19 横川メディカルプラザ 7F

### 会社行事



2022 年も新型コロナの影響を受けて中止となりましたが、「広島国際平和マラソン」への参加は 2019 年で 10 回目。 ボーリング大会などの社員同士の交流イベントも開催しています。



## 広島県（本庁）との意見交換会

- I 日時：令和4年10月25日（火）
- II 会場：ひろしま国際ホテル 3階「エメラルド」
- III 出席者  
 （県） 総括官（建設企画）、建設産業課長、技術企画課長、技術企画課技術管理担当監、建設DX担当課長 等  
 （協会） 会長、副会長、各委員長、経営副委員長
- IV 課題・議題
- 1 協会員の持続・発展について
    - （1） 公共事業（事業量）の確保
    - （2） 経営の安定・向上
  - 2 働き方改革の推進及び担い手の確保・育成について
    - （1） 働き方改革の推進
    - （2） 担い手の確保・育成
  - 3 その他
    - （1） 大規模災害時の対応
    - （2） BIM/CIM業務の取組
    - （3） 改正「公共工事の品質確保の推進に関する法律」の市町への周知・浸透



## 広島県（事務所長）との意見交換会

- I 日時：令和4年12月16日（金）
- II 場所：メルパルク広島 5階「瀬戸」
- III 出席者  
 （県） 各建設事務所所長・支所長、広島港湾振興事務所長  
 （協会） 会長、副会長、理事・監事、事務局長
- IV 課題・議題
- 1 協会員の持続・発展について
    - （1） 公共事業（事業量）の確保
    - （2） 経営の安定・向上
  - 2 働き方改革の推進及び担い手確保・育成について
    - （1） 働き方改革の推進
    - （2） 担い手の確保・育成
  - 3 その他
    - （1） 大規模災害時の対応
    - （2） BIM/CIM業務の取組



## 国（5事務所）との意見交換会

- I 日時：令和4年11月30日（水）
- II 会場：ひろしま国際ホテル 3階「エメラルド」
- III 出席者  
（国） 国の4事務所長・副所長，中国地方整備局技術管理課長 等  
（協会） 会長，副会長，理事，監事 等
- IV 課題・議題
  - 1 協会の持続・発展について
  - 2 働き方改革の推進及び担い手確保・育成について
  - 3 BIM/CIM業務の取組状況と今後の展開について



(一社) 広島県測量設計業協会 会員名簿

顧問 平口 洋 会長 森脇 克彦  
副会長 荒谷 悦嗣  
顧問 狭戸尾 浩 副会長 佐々木 仁志

(50音順)

会社名	代表者	郵便番号	所在地
(株)アース開発コンサルタント	飯川 松 義	737-0161	呉市郷原町 7140 番地の 1
相生エンジニアリング(株)	森脇 克彦	733-0025	広島市西区小河内町二丁目 1 番 6 号
(株)安芸建設コンサルタント	西家 宗利	736-0082	広島市安芸区船越南四丁目 3 番 25 号
(株)荒谷建設コンサルタント	荒谷 悦嗣	730-0833	広島市中区江波本町 4 番 22 号
(株)イズタコンサルタント	泉田 義博	723-0051	三原市宮浦三丁目 34 番 10 号
ウムヴェルト(株)	平賀 勝秀	737-0004	呉市阿賀南八丁目 1 番 7 号
(株)エイチテック	岡田 宏	720-0822	福山市川口町一丁目 16 番 35 号
(株)エイト日本技術開発広島支店	檜崎 拓也	732-0055	広島市東区東蟹屋町 15 番 3 号
ケイ・エム調査設計(株)	三宅 啓文	733-0006	広島市西区三篠北町 16 番 12 号
(株)新東コンサルタント	岩本 猛	733-0002	広島市西区楠木町三丁目 15 番 11 号
(株)セトウチ	土肥 真也	725-0004	竹原市東野町 158 番地の 3
(株)瀬戸内開発コンサルタント	飯田 昇	733-0007	広島市西区大宮二丁目 2 番 2 号
総合技研(株)	久保 正裕	737-0842	呉市吉浦東町 12 番 17 号
(株)タマルコンサルタント	田丸 哲志	728-0016	三次市四拾貫町 338-1
ダイホーコンサルタント(株)	法堂 一成	721-0961	福山市明神町一丁目 5 番 38 号
(株)第一総合エンジニア	上田 清文	731-0102	広島市安佐南区川内二丁目 3 番 53-7 号
(株)知久設計	高杉 鶴雄	721-0903	福山市坪生町 225 番地 1
中国開発調査(株)	寺田 博行	733-0822	広島市西区庚午中二丁目 13 番 24 号
中国工務(株)	谷本 慎也	731-0101	広島市安佐南区八木八丁目 21 番 28 号
中国施設設計(株)	大間 秀樹	732-0056	広島市東区上大須賀町 1 番 1 号
中電技術コンサルタント(株)	坪井 俊郎	734-8510	広島市南区出汐二丁目 3 番 30 号
(株)土木技術コンサルタント	大崎 博之	730-0011	広島市西区横川町二丁目 7 番 19 号
(株)ニュー技術	高橋 茂樹	731-5155	広島市佐伯区城山一丁目 1 番 3 号
(株)日航コンサルタント	愛須 友行	739-0025	東広島市西条中央一丁目 17 番 9 号
NEXCO 西日本コンサルタンツ(株)	福永 靖雄	732-0057	広島市東区二葉の里三丁目 5 番 7 号
(株)ヒロコン	下花 眞二	734-0011	広島市南区宇品海岸三丁目 13 番 28 号
(株)日野原富士コンサルタント	日野原 浄弘	731-0153	広島市安佐南区安東一丁目 6 番 9 号
広建コンサルタンツ(株)	元 廣和弘	720-0822	福山市川口町一丁目 7 番 3 号
(株)広測コンサルタント	瀬尾 公宏	739-0042	東広島市西条町西条東 809 番地の 1
復建調査設計(株)	來山 尚義	732-0052	広島市東区光町二丁目 10 番 11 号
(株)ミネ技術	峯岡 静彦	722-0051	尾道市東尾道 10 番地 20
明伸建設コンサルタント(株)	大石 宏	733-0033	広島市西区観音本町一丁目 6 番 1 号
(株)LAT環境設計	青木 成夫	733-0821	広島市西区庚午北二丁目 1 番 4 号
(株)陸地コンサルタント	佐々木 仁志	739-0005	東広島市西条大坪町 8 番 27 号

令和 5 年 2 月 1 日現在 34 社

(一社) 広島県測量設計業協会 賛助会員名簿

( 50 音順 )

会 社 名	代 表 者	郵便番号	所 在 地
アイサンテクノロジー(株)	加藤 淳	460-0003	名古屋市中区錦三丁目7番-14号 ATビル
(株)アライズソリューション	鎌田 泰宏	730-0833	広島市中区江波本町4番22号
(株)イズコン	福田 康伴	693-0011	出雲市大津町1778-1
(株)エフ・ケー・シー	森山 学	732-0052	広島市東区光町二丁目11番31号
岡三リビック(株)中国支店	新倉慎太郎	730-0021	広島市中区胡町4番21号 朝日生命広島胡町ビル
共和コンクリート工業(株)中国四国支店	片岡 司	732-0826	広島市南区松川町2番3号 山陽松川ビル4階
(株)山陽測器	桐木博之	733-0821	広島市西区庚午北一丁目20番9号
(株)ジツタ中国	實田 泰之	730-0043	広島市中区富士見町16番2号
(株)中建日報社	角井一隆	730-0805	広島市中区十日市町二丁目1番-8号 中建ビル
(株)トリンプルパートナーズ中国	窪田 義則	735-0004	安芸郡府中町山田二丁目4番-1号 サンシルクⅡ
(株)日刊建設工業新聞社	高田 智	730-0013	広島市中区八丁堀11番28号 朝日広告ビル2階
西尾レントオール(株)中国支店	橋本 宏治	731-3168	広島市安佐南区伴南一丁目2番1号
福井コンピュータ(株)中四国営業所	中村健二郎	732-0816	広島市南区比治山本町16番35号 広島産業文化センター11階
富士フィルムビジネスイノベーション ジャパン(株)広島支社	田中 豊	732-0827	広島市南区稻荷町2番16号
前田工織(株)広島支店	栗原 祐治	732-0825	広島市南区金屋町3番13号 タミヤビル3階
(株)マシノ	増野 裕人	733-0822	広島市西区庚午中一丁目19番23号
丸栄コンクリート工業(株)広島営業所	山下 健次	733-00.5	広島市西区南観音三丁目5番2号 空港通りビル603
ランダス(株)中国西支店	中村 稔	731-0102	広島市安佐南区川内五丁目16番12号

令和5年2月1日現在 18社



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

コロナ禍も早3年目となりましたが、広島県測協におきましては、令和4年度は休止していた協会活動がいくつか復活しました。10月22日に開催されたボウリング大会には、感染対策を施したなか、64名もの参加があり、コロナ禍の終息に向けた兆しが少し見えてきた感もあります。こうした苦難もあと少しだと思います。お互いの努力と知恵で乗り切りましょう。

一方、今年度の協会の新しい取り組みとしまして、担い手確保の業界等PR動画を作成いたしました。協会員のなかで20歳代の若手技術者に出演してもらい、彼らの言葉で業界の魅力をPRするものです。協会のサイトに映像をアップしております。若い息吹を感じていただければ、幸いです。広報誌と併せてぜひご覧ください。

最後に、広報誌「年輪」作成にあたり、本号の執筆にご協力いただきました皆様に心より感謝、御礼申し上げます。

総務広報委員長 法 堂 一 成

## 6 月 3 日 は 「 測 量 の 日 」

---

発行日 令和 5 年 2 月 吉日

発 行 一般社団法人 広島県測量設計業協会

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 8 番 23 号 林業ビル 5 階

TEL (082) 228-4899

FAX (082) 222-0599

E-mail [kensokyo@kensokyo.or.jp](mailto:kensokyo@kensokyo.or.jp)

URL <http://www.kensokyo.or.jp>

